

# 第14期スマートクルーズアカデミーレポート



平成30年5月7日~14日

<神戸=釜山=福岡=新宮=東京=神戸

7泊8日at コスタ・ネオロマンチカ>

主催:大阪大学国際公共政策研究科赤井研究室

共同企画:全国クルーズ活性化会議

## クルーズ・アカデミーの概要

### 第14期 スマート・クルーズ・アカデミー(2018年第1弾) ＜神戸＝釜山＝福岡＝新宮＝東京＝神戸＞ 7泊8日 at コスタ・ネオロマンチカ＞

#### 【コスタ・ネオロマンチカ】



- 乗客定員：1,800人
- 就航：1993年
- 総トン数：57,150トン
- 全長：220.6m
- 全幅：30.8m
- 巡航速度：18.5ノット

#### 【行程】

No.	日時	寄港地	No.	日時	寄港地
1日目	5/7(月)	神戸	5日目	5/11(金)	新宮
2日目	5/8(火)	終日クルーズ	6日目	5/12(土)	東京
3日目	5/9(水)	釜山(韓国)	7日目	5/13(日)	神戸
4日目	5/10(木)	福岡			

#### スマートクルーズアカデミーの趣旨

##### ★学生の論理的思考向上の場

船上でしか味わえない、見渡す限り何も無く、それぞれが集中してやりたいことに打ち込める洋上の素晴らしい環境で、国際関係や地域発展についての社会課題について議論し、船内、寄港地にて国際感覚のより一段の向上を図る。

##### ★クルーズ振興に向けた新たなマーケットニーズ構築の場

大学生がクルーズを体験し、若い世代からの視点で、将来のクルーズマーケットを熟成する。体験を踏まえて、日本の港湾戦略、寄港地の分析、日本の観光のあり方を議論し、自由に事業・政策提案する。

## ■ INDEX

第1部<乗船前と乗船時の感想> .....	1
(1) 概要を知る前のクルーズへのイメージ .....	1
(2) 事前のクルーズ説明会他でクルーズの概要を知った! .....	3
(3) 申し込み後、乗船日前夜の感想 .....	4
(4) クルーズ客船が目の前に見えた!大きさに驚きの連続。期待感が膨ら む .....	7
(5) 乗船直後の感動 .....	9
第2部<クルーズ船> .....	13
(1) 避難訓練と安全対策への感想 .....	13
(2) 船内施設(ハード面)の感想(船内施設・施設のレイアウトなど) .....	15
(3) 船内サービス(ソフト)の感想(食事内容(レストラン・ルーム・カフ ェ・バー・サービス・オペレーション(キャビン清掃、ホテルレセプシ ョンサービス、カジノ、その他船内の各部門オペレーション) .....	18
(4) 船内SHOW, エンターテイメントの感想(船内鑑賞イベント全般、プ ロダクションショー) .....	21
(5) 船内体験施設・内容の感想(ジムなど)・体験型イベント(ダンスPARTY など) .....	24
第3部 <各港での対応及び魅力> .....	28
(1) 乗船・下船港(神戸)での感想(港・ターミナルの施設評価、乗船時対応 の感想など) .....	30
(2) 釜山港での感想(乗船下船時対応・ランチ・BPAツアー(参加者のみ)・	

寄港地の魅力) .....	30
(3) 博多港(福岡)での感想(乗船下船時対応、視察コンテナポートツアー 一・寄港地の魅力) .....	34
(4) 新宮港の感想(乗船下船時対応・神社ハイキングツアー・意見交換会・ 寄港地の魅力) .....	37
(5) 東京港の感想(乗船下船時対応・寄港地の魅力) .....	40
第4部 <船上講義：スマートクルーズアカデミー> .....	43
(1) 学生提言「姫路港の活性化策について」の感想(各班の発表を聞いての 感想) .....	43
(2) クルーズ活性化会議プレゼン・パネル討論の感想 .....	46
(3) スマートクルーズアカデミー内容全般について(学生提言大会、自治 体との交流会、フォーマルナイト、夜の交流会など) についての感 想と今後の要望 .....	49
第5部 <地域活性化・クルーズ振興> .....	53
(1) 地域活性化のためのクルーズ客船誘致と港湾の役割(港湾関係者の発 表や船内での関係者との議論を踏まえて)についての感想(国・自治 体政策のあり方など) .....	53
(2) クルーズの社会的意義とクルーズ振興の在り方(ニーズの掘り起こし むけ での若い世代からの視点) .....	56
(3) クルーズ全般への感想：将来に向けての感想、上記の項目に該当しな かった部分への感想など .....	61

<注>

各項における本文冒頭の番号は、番号ごと同一の学生の意見・感想となります。また、学生の属性は以下のとおりとなっております。

No.	属性	備考
1	大阪大学（2年男性）	（初クルーズ）
2	大阪大学（2年女性）	（初クルーズ）
3	大阪大学（2年男性）	（初クルーズ）
4	大阪大学（2年女性）	（初クルーズ）
5	大阪大学（2年女性）	（初クルーズ）
6	大阪大学（2年女性）	（初クルーズ）
7	大阪大学（2年男性）	（初クルーズ）
8	大阪大学（2年女性）	（初クルーズ）
9	大阪大学（2年男性）	（初クルーズ）
10	大阪大学（2年女性）	（初クルーズ）
11	大阪大学（2年女性）	（初クルーズ）
12	大阪大学（2年男性）	（初クルーズ）
13	大阪大学（3年男性）	（クルーズ2回目：第12期コスタネオロマンチカ）
14	大阪大学（3年男性）	（クルーズ2回目：第12期コスタネオロマンチカ）
15	大阪大学（3年女性）	（クルーズ2回目：第12期コスタネオロマンチカ）
16	大阪大学（3年女性）	（クルーズ2回目：第12期コスタネオロマンチカ）
17	大阪大学（3年男性）	（クルーズ2回目：第12期コスタネオロマンチカ）
18	大阪大学（3年男性）	（クルーズ2回目：第12期コスタネオロマンチカ）
19	大阪大学（3年女性）	（初クルーズ）
20	大阪大学（3年男性）	（初クルーズ）
21	大阪大学（3年男性）	（初クルーズ）
22	兵庫県立大学（3年女性）	（初クルーズ）
23	兵庫県立大学（3年女性）	（初クルーズ）

## 第1部 <乗船前と乗船時の感想>

### (1) 概要を知る前のクルーズへのイメージ

1. クルーズに関して深い知識があるわけではなかったが、漠然とした期待を抱いていた。一方、比較的小金に余裕のある層が多く乗っているイメージがあり、少し敷居が高そうだなという感じがあった。船に乗った経験があまりないので船酔いするかもしれないという不安があった。
2. 豪華・価格が高そうなどの高尚なイメージがあり、身の丈に合っていないのではないかと感じる。また学生向けに売り出しているイメージがなく、具体的な想像がつかない。クルーズに乗船したことがないため、船酔いなど、一週間に渡って環境に適応できるかという体調面での不安。
3. 正直船で一週間は飽きると思っていました。また、以前少しだけフェリーで船酔いしたことがあり、一週間乗っていたら必ず船酔いしてしまい楽しめないのではと考えました。
4. お金持ちかつ、もう暇があるおじいちゃんおばあちゃんばかりが乗っているイメージ。あとはずっと船に乗ってるから、気が詰まりそうなのと、船酔いとかもひどそうだし、一生乗ることはないと思っていた。
5. 正直、船の中にリゾート地が建設されたものという認識しかなかった。また、寄港地で過ごす時間多少あるが、ほとんどを船の上で過ごさなければならないという否定的なイメージしかなかった。
6. 上回生の方々の話を聞いたり写真を拝見したことで、申し込もうかと考えていた時点で期待感が高まっていた。具体的に自分が乗船している際のイメージなどはできていなかったけれども、学生という身分の間にクルーズを体験できるという機会はまたとないと強く感じていたので、前向きに検討していたといえる。
7. ・本当に時間とお金に余裕のある人しか乗れないものである。・時間が長く暇である。・日本人には到底なじめるものではない。
8. 一週間も船に乗ったことはなかったので、船酔いが心配。リッチな気分を味わえそう。クルーズ自体学生にはあまり身近ではないし、今回は特に時期的にもゴールデンウイーク明けなので、学生はあまりいないイメージ。
9. まず、クルーズは「超お金持ち」の方々が行くようなものだと考えているので、学生にはあまりにも贅沢すぎて本当に楽しめるのかなと不安に思っている。さらに、飛行機や新幹線を使えばすぐに行けるようなところに何時間もかけて移動す



るので、船内ではどのような時間の過ごし方をするのだろうか（長旅に飽きてしまうのではないか）と考えている。

10. まったく具体的なイメージができなくて、自分では決して足をふみいれることができないような夢のような世界が広がっているんだろうなと思っている。お金持ちな人がたくさん載っていて、わたしたちのような一般人、ましてや学生などが体験できるようなものではないと思う。
11. 時間とお金があり余る富裕層の娯楽。乗船客の年齢層は高め。
12. そもそも船に乗ったことがなかったので、クルーズのイメージが全くわからなかった。豪華な印象があったが、船の中の設備やシステムがどのようなものか、人との関わり方もどのようなものかわからなかった。ただ豪華な印象があった。
13. 2回目の乗船のため回答なし
14. 2回目の乗船のため回答なし
15. 2回目の乗船のため回答なし
16. 2回目の乗船のため回答なし
17. 2回目の乗船のため回答なし
18. 2回目の乗船のため回答なし
19. 船の中で、いったい何をするのだろうかと思っている。Wi-Fiもなく普段見ているドラマや、バラエティ番組も見れない。ゼミのメンバーと一緒に乗船できることは楽しみであるが、正直暇になって時間を持て余すことではないだろうかというイメージを持っている。そのため、船内よりも寄港地での時間を楽しみにしている。
20. 小さな船には乗ったことがあったが何日も船の中で過ごす想像ができず船酔いは大丈夫だろうかなどの不安が大きい。先輩方がとてもクルーズを推していたので内容に関わらずとても楽しみである。どのような人たちが乗ってくるのかわからなかったのも楽しみである。
21. やはり金額が安くなるといっても、学生からすると高めの金額だったので、そこは考慮した点だった。また、パスポートが必要なため、準備段階で早めの行動が必要だったのでそこも考慮した点だった。
22. 金銭的に高そうなイメージがあった。船自体にあまり乗ったことがなかったので、船酔いするんじゃないかななどの心配ごとがたくさんあった。乗船後に、どんなことでお金がかかって、引かれていくのかという制度がわからなくて、心配だった。お金持ちの人が多そうなイメージだった。
23. それなりにお金が必要だし、授業も数回欠席しなければいけないのが引っ掛かる。欠席届もあまり効力はないみたいだし、正直書くのは面倒だ。貯金もないし、あまり親にお金を借りたくない。しかし内容は面白そうだしどうしようか。それほど自由時間もないから船内の施設を楽しめるのかわからないし…。

## (2) 事前のクルーズ説明会他でクルーズの概要を知った！

1. 船内施設が充実していたり、船内でイベント等が数多く行われることを知り、期待が膨らんだ。また、言語面で不安があったが、イタリア籍の船であるものの英語や日本語が船内で十分に通じることを知りやや安心した。
2. パンフレットから、学生が国際関係や地域発展についての社会課題について議論する機会や、浴衣ナイトやホワイトナイトなど、イベントが盛りだくさんということがわかる。クルーズやその意義、また振興について考え議論する機会と並行して、クルーズ自体を存分に楽しめる機会がある。
3. クルーズの概要を聞いたとき、船酔いはしないと思いましたが、船内設備がどれだけ充実しているかわからず、一週間船内で過ごすということに対して不安がある。
4. 想像より寄港が多いのだなあと思って、気が詰まりそうだという心配は解消された。また、プールなどの施設だけでなく、スパの施設などがあるのが意外で、リラクゼーション施設が充実しているのがいいなと思った。パーティでいろいろなテーマがあるのも楽しそうだった。
5. クルーズの概要を知り、施設や食事内容などのバリエーションの多さに驚いた。また、純粹に一週間近く乗客を飽きさせないための工夫を見てみたいと思った。
6. 上記の通り、概要を聞かせてもらう前から期待値は高かったが、PVの動画やパンフレットなどを見せてもらうことで現実味が増してきて期待値はさらに上昇したといえるであろう。想像していたよりも豪華な船内設備となっていたので、高揚感があった。
7. ・船の中とは思えないぐらいおしゃれなレストランだ。
8. たくさんのプログラムが用意されていて驚いた。施設がとても充実しているなという印象。思っていたよりもレストランやバーの種類がたくさんあるのであきなさそう。海を見ながら走れるジムに行くのが楽しみだ。
9. 結論から述べると、非常にわくわくしている。というのも、クルーズの概要を聞いて、船内にたくさんの施設があることを知り（例えば、レストランだけでもこんなにたくさんあるのかと驚いた）、またダンスパーティーなどのイベントもたくさん開催されていることを知った。これなら、上記で述べたような「長旅に飽きる」ことはなく、むしろとても楽しめると思う。
10. 服装の規定などを聞いて、堅そうな印象を受けた。テーブルマナーや、そういった高貴な場所でのマナーが不十分なのに参加していいのだろうか、不安や緊張



が大きくなっている。また、そういった場所で生活するというのはどういうことだろうかという好奇心も大きくなり、クルーズへの期待も高まっている。

11. 概要を知る前とあまり変わらず。しかし映像を見ることで、クルーズへの乗船が現実味を帯びてきた。
12. 概要を知った時、クルーズの設備やアカデミーのイベントの充実性に驚いた。旅行としての側面と、アカデミーとしての研修的側面が上手く混ぜ合わさっていて、非常におもしろそうだと感じた。船内スケジュールや旅程があらかじめ分かっていたので期待が大きくなりさらにわくわくした。
13. 2回目の乗船のため回答なし
14. 2回目の乗船のため回答なし
15. 2回目の乗船のため回答なし
16. 2回目の乗船のため回答なし
17. 2回目の乗船のため回答なし
18. 2回目の乗船のため回答なし
19. 船の中にレストランやディスコ、ジム等の施設が充実していると知り、船内の時間も非常に楽しみになる。フォーマルナイトやホワイトパーティーなど、去年はみんなが楽しそうにしている写真を見て羨ましいと思っていたイベントに今年は自分も参加できると思うと、胸が躍って仕方ない。
20. 格安で乗れていたとはいえ、学生にとっては少しきつい値段設定だと感じる。しかし、減多に行けることではないのでどのようなものなのかという期待に胸を膨らましていた。船内でのパーティーがどのようなものなのか想像できないままである。
21. クルーズに乗ることが出来て、高齢層の乗船客が多いと感じたが、学生でも楽しむことのできるものだと知ったので、若い層の人もクルーズに乗れる機会があれば是非乗って欲しいと感じた。
22. 思っていたよりも価格が高なくて、学生の自分でも頑張れば参加できるんだというイメージが変わった。リッチな年配の方が多くイメージがあり、ドレスコードなどでどれくらいの荷物を持っていけば良いのか想像できなかった。
23. 服装にテーマがあったり、マジックショーやダンスがあったり、思っていたより賑やかそうな感じだ。スケジュールは聞いていた通り分刻みで大変そうだけど、その分充実しそうだし頑張ろう。イタリアの船ということらしいが、なにせ初めてのクルーズでほかの船を知らないのであまりピンとこない。

### (3) 申し込み後、乗船日前夜の感想

1. 乗船への準備に追われていたものの、クルージングという非日常を1週間体験できることへの期待感があった。せっかく乗船するからにはクルージングを楽しむとと

もに多くのことを学び取ろうと考えた。

2. クルーズ船で各地を観光する貴重な機会をいただいて目一杯楽しもうと思う。また、寄港地や船内でのディスカッションや現地の方々とのふれあいの中でクルーズや港湾に対する理解を深めたい。一方で、クルーズに乗船することが初めての経験なため不安に感じることも多い。例えば、船酔いに関しては不安なため、酔い止め薬は日数分用意した。
3. 一週間過ごせるのかという不安と逆に一週間現実から離れられるという期待を抱き準備をしています。
4. 想像より寄港が多いのだなあと思って、気が詰まりそうだという心配は解消された。また、プールなどの施設だけでなく、スパの施設などがあるのが意外だった。リラクゼーション施設が充実している印象を受けた。また夜のパーティのドレスコードがテーマ別であったりするのが楽しそうに感じた。
5. 旅行に行く前日同様、楽しみであった。
6. 乗船するための荷物準備が進んでおらず少し焦りの気持ちもあったものの、それ以上に楽しみだという期待の気持ちが強くワクワクしていた。乗船中の天候を調べて乗船中どのように過ごそうかとイメージを膨らませていた。
7. ・本当に忘れ物をしていないだろうか不安である。・船内で英語などが通じるか不安である。・体調が悪くならないか。
8. これから始まる一週間への期待とドキドキ。何よりも楽しみな気持ちが一番大きく、パンフレットを眺めるだけでも楽しい。天気が良くない予報だったので、雨がやんでほしいという気持ち。あとは船酔いしないかの心配も。
9. 明日の出発に備えて荷物をつめながら、とてもドキドキしている。理由は2つある。まず1つ目の理由は、やはり「クルーズ」という非日常体験に対して漠然とした不安・期待を抱いているからだ。「明日からいったいどんな1週間が待っているのだろう」とずっとドキドキしながら考えている。そして2つ目の理由は、出会ったばかりのゼミ生や他大学の方々と7泊8日という長い時間を楽しみながら共有できるのだろうかという不安があるからだ。乗船前夜は、とにかくドキドキしている。
10. 出逢って数ヶ月の人と8日間をともに過ごすことへの不安、想像できないような場所での生活への不安、服装等を含めて持ちものが十分かどうかの不安や緊張が大きい。それと同時に、明日から始まる非日常な生活への好奇心や期待で興奮している。
11. 荷物のパッキングもやり終わったことで、さらに明日の乗船を実感し期待が高まる。
12. 自分が今までに感じたことのない新たな体験ができると思って、気分が高揚していた。ただ、荷物が非常に多かったので、荷造りに苦労した。乗船の手続きや事前準備



備が複雑だと感じていて、当日が多少不安だった。

13. 昨年と同じクルーズ船と分かっていたため、あまり特別な思いはなかった。ただ、ゴールデンウィーク明けであったこともあり、普段の生活に復帰することができるのかどうかに対する不安がこの時点であった。今回は前と異なる楽しみ方ができればいいなというようなことを考えていた。
14. 大変楽しみではあるが、昨年と同じクルーズ船であり、また三つの寄港地のうち、釜山と博多は去年も寄港していたため、正直新鮮さはほとんどない。また終日クルーズが2日間も予定されていたため、暇になりそうだなと感じる。
15. 前回とは違い、はじめの寄港地が海外（釜山）であるということが最も印象的。また、昨年と同じく船内イベントや船内施設が充実したクルーズとなっており、クルーズ船内での時間が非常に楽しみである。去年船内で飲み物が有料であったので、今年は去年と違いドリンクパッケージがあることは非常にありがたいと思う。さらに、寄港地での視察も、普段は見学できないところに行けるので、しっかり視察しようと思う。
16. 今回は前回と同じ船であること、寄港地も前回とほぼ一緒であることから、船や寄港地に対するワクワク感はあまりないが、ゼミ生全員でクルーズアカデミーに参加でき嬉しい。そして、2回生と仲良くなりたい。
17. 先にも述べたように、このタイプの船に乗船するのは2回目であるため、前回よりも緊張度としてはひくい。しかしながらクルーズは同じ船に居合わせた乗客によって全く違う楽しみ方ができるものだと思っているので、一緒に乗船するゼミのメンバーも昨年と違う今回のクルーズも前回と同じように期待で胸が高鳴っている。
18. 昨年と同じ船だということで船内サービスについては特にワクワク感はない。だが、昨年と同じクルーはいるのかとか、船内イベントはどう変わっているのかなどについては非常に期待している。また今回は航路が去年とは異なる太平洋側ということで、去年とは違う寄港地を訪れることに関して楽しみである。さらに終日航海も初めての経験であったので1日船内で過ごすというのはどういうものだろうかということに胸を膨らませている。
19. 余りに楽しみにしすぎて、布団に入ってもなかなか眠れない。何度も何度も忘れ物がないかを確認し、やっぱりもう1個持っといた方が安心！などと考え、どんどん持ち物が増え、寝る時間が遅くなる。クルーズは非常に楽しみであるが、その前に授業を受けなければならないと思うと、非常に憂鬱な気分になる。
20. 各寄港地について軽く事前学習を行い、イメージをしていた。パーティーの荷物を詰める時は楽しみではしょうがない。神戸港で阪大生と県大生に会っているとはいえ少し緊張している。ご飯がおいしいことを願う。
21. あらかじめ、ツアーの概要をPDFで確認してはいたが、約1週間の船旅となると持っていく物が不足しないだろうかなど、不安は少しあった。ただ、初めてのクルーズ

ということもあって期待値はとても高かった。

22. 少し風邪気味であったのと、先生も同じ大学の友達も途中で下船してしまうので、不安しかなかった。今までの旅行よりも荷物が多く、なかなか用意が進まなくて、行くのが嫌になりそうだった。プレゼンも完成しきってなかったのも、不安要素の一つになってしまっていた。
23. 荷物が多いのと重たいのとで、雨の中運ぶのが大変そうだ。結局試合で途中下船しなければいけなくなったのがとても残念。電波が繋がらないのもすごく心配だし、船酔いも大丈夫だろうか。忘れ物はないと思うが、パスポートなどの大事なものだけ明日もう一度確認しておこう。

#### (4) クルーズ客船が目の前に見えた！大きさに驚きの連続。期待感が膨らむ

1. 率直に「大きいな」と思った。大人数が乗るような巨大な客船を目にした経験がなかったので、乗船経験がある人よりもより一層深い感情であったと思う。船体の前で記念写真を撮ろうとしたが船体が写真に納まりきらなかった。
2. カジュアル船と聞いていたけれど、スケールの大きさや迫力に驚いた。自分たちはこれからこのクルーズ船にのって一週間各地をまわるのだと思うと胸が高鳴る。雨が降る中の乗船となっても、クルーの方が傘を差してくれ船内まで誘導してくれるなど、サービスがとても良い。
3. 大きい。この一言に尽きました。こんなに大きい船は見たことが無くとても興奮しました。フェリーで酔ったから今回も酔うのではと思っていましたが、全くその心配はなくなりました。ただ、心配性なので転覆したときのことを少し頭によぎりました。
4. とにかく大きい、白い！と思った。窓がたくさんあって、多くの人が乗っているのだなぁと実感した。救命ボートは思ったより小さめで足りるのかなぁと少し不安になった。外から見る分にもとても重そうで何トンくらいあるのかが気になった。たくさん航海を経ているだろうに、船の側面がとてもきれいなので、掃除とかどうやってしているのかと思った。
5. クルーズ船自体を間近で見たことがなかったため、その大きさと外から見える中の様子（カーテンやソファなど）に驚いた。また船を見た瞬間に中の様子を色々と想像してしまい、一気に楽しみになった。
6. 残念なことに乗船日当日は天候が悪かったために、最高のコンディションでファーストコンタクトをとることはできなかった。それでも最寄り駅につき船が見えたときは、予想していたよりも大きな船体に驚かされ、これから一週間自分がこの船で旅するのかと考えると気持ち弾んだ。



7. ・ポートライナーから見て同じ高さにある時本当にこれに乗るのかと思い、「すごい」の一点張りだ。・港から見上げるクルーズ船は非常に大きくこれは子供たちも見に来たら喜ぶだろうと思える。
8. 大きいとは思っていたけど、やっぱり大きい。私が神戸に来たときに普段目にするのは遊覧船ばかりなので、これだけ大きな船が港にあるのはなんだか変な感じ。乗船後への期待がより一層膨らむ。
9. やはりその大きさに驚きを隠せない。岸壁からクルーズ客船の写真を撮ろうとしたところ、あまりにも船が大きすぎてカメラアングルに収まらなかった。さらに、船尾の方がガラス張りになっている階で、すでに東京から乗船していた方々が食事をとっている姿が見えて、自分も今からあの空間に行くことを考えるとより一層わくわくしてきている。
10. 想像をはるかに超える大きさに圧倒されている。雨の中、海に浮かんでいるとは思えないほど、堂々と存在しているクルーズ船に感動している。自分の視界におさまりきらないサイズの船を見るのは初めてで、自分の中の船の概念が大きく変わった。
11. 大きい。大きすぎる。ゴージャス。綺麗。かっこいい。やはり映像よりも何よりも、実物を目の前にすることでその凄さを体感した。しかし逆に、そんな船に今から自分たちが乗ることが信じられなくて現実味がなくなってきた。自分たちが乗っていいのか？と思ってしまうような豪華な船、という印象。
12. 率直な感想として、まずクルーズ船の荘厳さに感動した。自分が想像していたものをいざ目の前にすると何とも言えない気持ちになった。カメラに収まりきらない程のスケールに驚くと同時に興奮すら感じた。ライトアップが綺麗でこれからの期待を大きく膨らませた。
13. 思っていたよりも大きく感じた。天気が悪かったのが残念ではあったが、神戸港に泊まっていることもあり、すごく親近感があった。同じ船であっても一年たつとイメージが少し変わることもあるのだということを思っていた。
14. それほど大きい船ではないと聞かされていた中で、去年はその大きさに大変驚いたが、今年は二回目ということもあり、見慣れたような感覚でいたが、岸壁で見たときには、その大きさに驚かされた。神戸港ということもあり、周囲には他の船舶もいたが、大きさは圧倒的。
15. コスタが目に入ったのは、神戸ポートライナー線に乗っている時だった。去年も同じ船を見て、コスタの大きさは把握しているつもりだが、率直に、その大きさ



に驚いている。去年の楽しかった思い出が強いため、クルーズ客船が目に入ると、これからこの船に乗って、楽しい時間が始まる！という気持ちが湧き上がり気分が高揚している。

16. 船の大きさに関して、1年ぶりに見る船は記憶していたものよりも大きく、こんなに大きかったらどうか、と不思議に思う気持ちである。そして、実際に船を目の前にして、船に乗るという実感がわき、一気に気分があがった。
17. 今回の乗船港は神戸港であるため、神戸港のクルーズターミナルでの2回目の顔合わせとなった。ポートルライナーからクルーズ船が見えた時にはもう船にだいぶ肉薄していて、その大きさを一年ぶりに感じ、改めたその巨大さに圧倒されている。
18. 前回は舞鶴港の視察後、周辺のビルの上から初めてコスタを見たので遠目から見ても大きいなという印象を抱いたが、今回はポートルライナー乗車時に急にビルの陰から巨大な客船が飛び出してきたという感じで、去年よりも驚嘆した。乗船に近づくにつれてだんだん去年の記憶がよみがえり、過去の印象と目の前にある現実を一致させることができた。
19. まず電車の中から船を見たが、そのときは何とも思わない。ああ、あれくらいの大きさなんだなと船に対して失礼な感想を抱く。しかし電車から降り、船に近づくにつれて、自分の想像よりも大きく、迫力のある姿に感動する。一体、何階まであるのだろうか、どんな内装なのだろうかと非常にワクワクする。
20. 祖母の家が下関にあるため大きな船には見慣れている。特別驚きはしなかったがこれから今まで自分が見ていただけの船に乗ることができるのだと思うと興奮する。これから1週間の旅が楽しくなるだろうなと確信を持つ。
21. 初めて、コスタのクルーズ船を見たときはとても大きくて、このような豪華な船に今から乗るのかと思い、とても嬉しく感じた。先生や他の乗船客の人にコスタはまだ小さい方の船だと言われてこれより大きい船があるのかと驚いた。
22. クルーズ客船を間近で見たことがなかったので、ただ普通に大きいなあと感じた。船と言えば海猿という勝手なイメージがあったので、沈没しないのかなという不安な気持ちにもなったが、一週間のリッチな旅行が始まる！というわくわくな気分だった。
23. これからいよいよこれに乗るのか。テレビで飛鳥Ⅱを見た後だからか、思ったより小さい気がするけど、丸窓からはどんな景色が見えるのか楽しみ。雨が降っているし、暗いから船の外装はあまり見えないが、煙突みたいなものが何なのか気になる。写真撮影では石田さんが突然ベルを鳴らして驚いたので、変な顔になっていないか心配。(笑)

## (5) 乗船直後の感動

1. イメージ通り船内は手入れが行き届いており、また落ち着いた雰囲気漂って

るように感じた。船員さんの態度もおおむねフレンドリーであり好感が持てた。部屋は2人部屋であったが、十分な広さがあった。

2. 預けた荷物が思っていたより早くに部屋まで到着したためとても助かった。私は2人部屋であったため十分の部屋の広さであるが、同じ部屋の広さで3人で過ごすには少し狭いのではないかと感じる。部屋をクリーニングしてくださるクルーの方の愛想がとてもよく、気持ちが良い。
3. イタリア船に乗るということもあり、実際は英語じゃないんじゃないかと思っ  
ていましたが、乗ってみると船員さんは東南アジア系の方が多く、英語だけでなく多少日本語が話せたので、コミュニケーションは安心しました。乗ってみて思っていた以上に外国の方が多く、多文化の空間を感じました。
4. 日本を回る船だから日本語を話す船員さんが多いのかなと思っていたが、ほとんどの人は話せない  
ので少し驚いた。また訛りのある英語が最初は聞き取りにくく、コミュニケーションがうまく取れるか不安になったが、あまり聞こえないながらも笑顔で対応してくれるので、好感が持てた。船内は掃除が行き届いていて、1週間落ち着いて過ごせそう  
だと思った。
5. 船内の様子、特にパブリックスペースのバリエーションの多さは私の想像を遙かに超えていた。提供する物ごとに基調とする色だけではなくソファやラックの系統、また天井の高さなどが異なり、場所ごとにその雰囲気  
に浸れることに驚いた。
6. 人生初めてのクルーズ船乗船ということもあり、乗船直後は内装をみてPV動画と大差ないクオリティの高い船内の豪華さに目を奪われた。また、乗船の際に荷物の受け渡しに苦勞していた際に手伝ってくれたり、イタリア語でのあいさつを教  
えてくれたりと、クルーの方々の対応も心地が良かったと記憶している。
7. ・船員さんたちはみんなフレンドリーに話しかけてきてくれて楽しみやすい船内である。  
・想像以上に内装が豪華である。  
・広々としていて普段見る船の中とは大きく違う。
8. 船員さんが「こんにちは」とか「Hello」とか目が合ったら必ず声をかけてくれて、荷物チェックの段階でお話したりもして、とてもフレンドリー。船内はほとんど予想通り。ただ少し思っていたよりも天井が低かった。乗客はやはり学生は少なく、年配の方が多い。
9. まず、乗船するときに雨が降っていた中で傘を差しだしてくれた船員さんのおもてなしに好印象を抱いた。そして船内へ入るとすぐに10階以上まで行く複数台のエレベーターを見つけ、自分がこんなにも大きな船に乗っている実感が湧いてい



る。そして、自分がこれから宿泊する部屋へ行くと、自分がイメージしていたよりも天井が高く、また内装も豪華なので、（イメージからかけ離れていたため）自分が船の中にいるとは思えないような感覚になっている。

10. ホテルのような客室を想像していたので、それに比べると客室は狭かった。イタリア船だと聞いていたので、日本人と西欧人のクルーが多いのかと思っていましたが、実際はアジア人も多数いて、親しみやすい印象を受ける。船員さんはみなさんとても優しく、ユーモアのある人で、もっと格式ばった対応をされると思っていたので、一気に緊張がやわらいだ。
11. 思っていたよりも部屋が狭い。しかし廊下のカーペットなどは素晴らしく、高級ホテルにいるかのように感じた。
12. 船内はまるで異世界のように感じられて、とても魅力的だった。これまでに味わったことのない船内の雰囲気に加え、あれほど多くの外国の人々に囲まれた生活を送るのは初めてだったので非常に興奮した。
13. 船内は去年と変わらずきれいだった。船員さんも明るく丁寧で接しやすかった。昨年の経験から英語で話すときはセンテンスでなく単語で伝えるようにしたほうが案外伝わりやすく感じたので、実践したが、やはりそうであった。
14. 船内に入った瞬間から海外（イタリア）の雰囲気が味わえ、またクルーの人と英語でコミュニケーションをとるなど、非日常が味わえる。一般的な旅行では、現地に到着するまではそのような体験をすることはないので、クルーズの強みの1つであると感じる。
15. クルーズ船内はやはり豪華な内装で、さらに外国人クルーが多かったので、一瞬で日常から離れた空間にいるような気持ちになる。部屋から見える海の様子もこの気持ちを助長している。去年との印象の違いは、客層が去年よりも幅広く、幼い子供からご高齢の方までクルーズを楽しんでいるということだ。さらに、船内を散策していると、去年は日本人が大半だったが、今年は海外の方が多いことがわかり、少し驚いた。
16. 船内の設備に関しては記憶していた通りであり、目に入るもの全てが懐かしく感じられた。また、やはり船内は広く、相変わらず迷いそうだと感じる。
17. 豪華客船と聞いていただけあって、それなりの外装を想像していたが、それにたがわない豪華さで圧倒された。また毎朝のベッドメイキングもきれいに施されており、感動した。乗務員の方がアジア系が多いのは少し創造と違うところだったが、それでも快い接客態度だった。



18. 乗船してみて去年と変わってないなという印象を抱くと同時に、戻ってきたなという感覚を覚えた。自室も昨年と全く同じ作りで目新しさはない。昨年はルーム担当の人がとても気さくな方で初日に仲良くなれたが、どうやら今年はそういったタイプのクルーではないようだ。船内設備もサービスも特に変わっていないようなので、特にどこかに行きたいということはないが、今年は去年あまりできなかったバーに通うということをしてみたい。
19. とても豪華な内装でびっくりする。自分がお金持ちのお嬢様にでもなったような錯覚を覚える。船員さんは非常に気さくで、日本語も流暢ですごいと思う。船に乗る際に傘をさしてくれた船員さん、荷物を持ってくれた船員さんがイケメンに見える。
20. 船内は思っていたよりも豪華で驚く。日本の航海なのに欧米系の外国人のお客さんも多く日本は人気なのだと思う。また、船員さんが東南アジア系の方が多い印象で、みんなノリが良く英語も通じるので好印象である。
21. 船員の方はイタリア人も多かったが、アジア人も多く、日本語で話すこともできたし、拙い英語でも会話することができ、とても親切だったため、クルーズの生活がとても充実した。また、船内は内装なども凝っていて、乗っていてワクワクしました。
22. 思っていた以上に緩い感じだった。ずっとおしゃれをして、周りを気にしてないといけなかつたかと思っていたが、カジュアル船なこともあって、服装などでイメージを覆させられた。全体的にバブリーな感じだった。
23. 廊下は狭いけどとても長くて驚いている。普通のホテルではありえない長さである。ただ聞いてたより揺れを感じるのが少々気がかりである。絨毯がふかふかなので平衡感覚を保ちながら歩くのが大変そうだ。部屋もエレベーターからかなり遠いので一週間少し不便しそうである。

## 第2部 <クルーズ船>

### (1) 避難訓練と安全対策への感想

1. 乗船してすぐ避難訓練が行われたことから、安全面の意識の高さを感じ取れた。避難訓練は説明が分かりやすく丁寧であった。ただ、予告なしにいきなり訓練用の音声が船内に流れ出すことがあり少し面食らった。
2. 避難訓練の中身がとてもしっかりとしていた。例えば、災害時においてそれぞれの人がどこに集合し避難するかをアルファベットで書かれていたため分かりやすかったし、ライフジャケットの着用方法も日本語で丁寧に説明してくださっていたのでかなり安心感があった。
3. 船の大きさを体感した後、転覆した時のことが頭をよぎりましたが、乗船後すぐ避難訓練があり丁寧な説明を受け、また救助船の存在とを確認して落ち着いて行動すれば大丈夫だと確信しました。
4. コメントなし
5. 日本人客が多いこともあり日本語で丁寧に説明してくださりわかりやすかった。また、各自部屋で安全対策のビデオを見るとかではなく、実際に防具を装着したりと身のためになる訓練が行えた点が良かった。
6. はじめてのクルーズ船乗船ということで、安全上気を付けなければならない点も全くの未知であったため、このような機会が設けられていたのは大変良いと考えられる。その一方で、ライフジャケットを部屋に取りに戻り集合場所へ向かって…などといった行動までの時間的猶予が若干短いようにも感じられた。
7. ・二回行うならそのようにアナウンスして欲しかった。・2回目の避難訓練（東京港乗船後）の避難訓練の内容は緩すぎてどうかと思った。もう少し本格的に（神戸港乗船後のように）すればよいと思った。
8. 出席を確認したり、しっかりとした安全対策をしているなと感じた。ただ、前の席のおじさんが爆睡していたのが気になった。全員がしっかり安全について把握する必要があると思う。
9. 避難訓練・安全対策ともに、きちんとなされていたと思う。避難訓練では、コストカードを使用して必ず全員が訓練することが徹底されていたし、そのような姿勢が安全対策への信頼につながっていると思う。また、アナウンス・看板等が多



言語に対応しており、安全対策における言語の壁もできるだけ減らす努力がなされてきたと感じた。

10. 全員の参加が義務付けられていると知らなかったのも、その制度が整っていることにまず驚いた。同じように事故が起きる可能性がある乗り物として、飛行機が挙げられるが、飛行機でそのような訓練が乗客向けになされることはまずないので、改めてクルーズ船の大きさや8日間旅をするうえでのクルーズ船の重要性に気づかされた。
11. 避難訓練への参加はカードを通してデータで保存・確認するなど、安全対策はきちんとされている印象を受けた。
12. 避難訓練は映像が用いてあり、またクルーの説明も非常に分かりやすかった。安全対策もしっかりしている印象があった。また、室内にも避難について日本語の映像が流れており、しっかりと理解することができた。
13. 避難訓練はクルーは本気でしてほしいそうであったが、やはり多くの人はこの時代に船の中で避難が現実になることはないと感じていると思うので、その認識の差が大きいのではないかと感じた。実際問題、船の横にある小さなボートでどれだけの人が船から降りることができるのだろうか。
14. 安全対策は参加不参加をコストカードで管理するなど、参加させることに関しては徹底していた。しかしながら、乗船直後で気分が高揚していることや、安全であろうという思いこみからか、参加者に緊張感はなく、どれほど伝わっていたかは疑問。
15. 避難訓練では、口頭での説明だけではなく、動画での説明、実際に救命胴衣を着ての訓練など、実際の緊急事態を想定した訓練が行われており、いざという時のイメージがしやすかった。
16. 昨年も同じ訓練を受けたので、特に感想はなかった。昨年見たビデオの内容や、注意された内容、船内の安全設備やアナウンスについて、思ったよりも覚えていた。
17. 避難訓練の概要は船内ビデオでも常に流されており、実際に避難訓練の場に行ったときにイメージがわきやすかった。また何か国語もの避難訓練ビデオがあったのも印象的であった。安全対策でも同様だが、甲板の柵は何かしらの事故で落ちそうでそこは少し怖いところでもあった。
18. 避難訓練は昨年と同様、ライフジャケットの着脱がメインであり、説明や実演の方法は適当であったように思う。船内が混乱しないように集合場所をいくつかに分けているというのは素晴らしい試みだと感じた。ただああいう場で実演はできても実際危機的状況に陥った時正しく避難誘導してもらえるのかはまた別の話であり、実際クルーがどのくらいの頻度で訓練を受けているのかが一つ気になる場所ではある。

19. 日本語で行っていただいたことで、きちんと理解することができて非常にありがたかった。夕飯の後すぐであり、バタバタしたので、もう少し時間に余裕を持って行動すれば良かったと反省した。説明とかは丁寧だったのに最後の解散は雑で、どうしたらよいのか戸惑った。
20. 避難訓練では実際にベストを着て説明を聞いたので飛行機などに比べもしも何かあっても迅速な対応ができるなどと思う。また、全員が受けたか出席管理を行うほど厳格にやってくれていたのも安心する。プレゼンも日本語でやってくれてありがたい。
21. 避難訓練は分かりやすいムービーと、船員さんの説明がわかりやすいものだったので、聞いていて安心することができました。避難訓練と聞いて、もっと型苦しいものだと思っていたが、案外早く終わったので、良かったと思う。
22. 避難訓練に行ったのが始まるギリギリだったからかもしれないが、気づいたらDVDが始まっていてあまり見られなかったのと、説明がほとんど聞けなかったので、こんな感じで大丈夫なのかなと思った。部屋のテレビで避難訓練のビデオがずっと流れているので、その点に関してはありがたかった。
23. 開始から数分遅れてしまったが、重要なことは聞くことができた。ライフジャケットの着用方法もクルーに直接教えてもらえたとし、あとは着る必要のないように願うしかない。飛行機でも同じような説明がされるが、日本ではあまり聞かないからか、飛行機ほどの恐怖心は感じない。

## (2) 船内施設（ハード面）の感想（船内施設・施設のレイアウトなど）

1. どの施設からも万人が好むようなおしゃれさが感じられたことから、全体的にデザイン面に力を入れているなど感じた。遊んだりリラックスしたりするための施設も豊富に存在しており、1週間の間退屈することがなかった。
2. 螺旋階段やインテリアが綺麗、雰囲気が大人っぽい、階ごとにレストランがあって迷子になりそうだなと思った。また、階ごとにコペンハーゲン、アムステルダムなどのコンセプトがあり、飽きさせない仕組みを感じた。私が一番お気に入りだったのは展望デッキである。デッキからは360度ひろがる海が見渡せ、夜には満天の星が見えた。ただ、雨が降っているときは屋根がないため利用できず残念だった。
3. たくさんの施設があるんだと感心しました。客室だけでなく、バーやレストランが多数あり、ダンススペース・カジノ等一つのアミューズメントパークのような



雰囲気を感じました。

4. コメントなし
5. 普通のプールだと思って入ったら水が海水だったことに驚き、海を求めてリゾート地に行く私にとっては嬉しかった。またデッキには十分な数の椅子やベッドがあり、「日光浴したいときにできない」という状況がなかったことが嬉しかった。そして十分な数の椅子やベッドが装備されていても、閉塞感を感じさせない配置に驚いた。
6. カジュアル船に分類されるものでありながら、ラグジュアリーさも兼ね備えているような雰囲気でありよかったとおもわれる。他方、私自身の記憶力の問題が大きいであろうが、どのフロアにどの会場があるのかなかなか判別・記憶が難しかったので、エレベーター内にでも各フロアに何があるのかを示されているとよいと感じた。
7. ・船内が2つの棟に分かれていることには最初は戸惑った。・プールやジム、さらには岩盤浴などが普通の大きさで一つの船の中にあることが驚きだった。・名前がややこしくて何回も間違えた。
8. 今まで遊覧船やフェリーしか乗ったことが無かった私にとっては、船の中とは信じられないくらい施設が豊富で大満足だった。ひとつひとつの施設は大きすぎず、ちょうど良いと思った。吹き抜けのホールなどがあればもっといいと思った。
9. 総じて良かったと思う。初めてのクルーズだったので他と比較することはできないが、十分楽しめた。レストランやプールなどの大規模な施設はもちろん、トイレや水回りなどの細かなところもきちんと整備されていたことが好印象だった。ただ、欲を言うならば、テニスコートやウォータースライダーなどアクティビティ系の施設がもう少しあればより楽しくなると思うし、若年層にもっとクルーズ文化が広がるといった。
10. どこもかしこも高級感が漂っていて、ゆったりとした気持ちで過ごすことができた。船内のつくりをなかなか把握することができず、行きたい場所を見つけるのに時間がかかった。また、ジムへ運動着で行こうとすると、きちんとした服装をしている人のいる空間をそのような格好で通らざるを得ず、その点についてはジムへ行くインセンティブが減少した。
11. 終日航海の日もあり、一日中船内にいる日も乗船客が退屈しないような工夫がされていると感じた。（船内では体が動かさないので、スポーツが好きな人のためにはジムやデッキのランニングが利用してもらえるように。お酒が好きな人のためには、一晩で飽きないように何種類ものバーを。）
12. 船内設備はどこもとても綺麗で、豪華な感じがした。この雰囲気が、非日常感の演出に大きく寄与していたと思う。船内施設は無料のものだけでも十分楽しめた。カフェの雰囲気も非常に良かった。有料施設は、学生には高く利用するのは難し

いと感じた。

13. 去年と何も変わっていなかった、しかし、どこかが痛んでいるといった様子もなく、かなり頻繁にメンテナンスが行われているように感じた。というのも、高校のときに校舎の建て替えがあったが、一年後には床の傷が目立ったりしていたからだ。船内という手入れのしにくそうなところであるが、しっかりできているのだと感じた。
14. クルーズ船の中ではあまり大きくない船ということもあり、船内アクティビティーはそれほど充実していない。しかしながら、船内のショーなどは充実していたため、終日クルーズも時間を持て余すことなく楽しめた。ただ悪天候でデッキにでられないと、船室でしかくつろげないため、少し残念だった。
15. コスタカードで、支払いができることは去年とおなじく、荷物をあまり持たずに移動できるので便利だった。あと、今年初めてジムに行ったが、想像していたよりもさまざまなトレーニングができるマシンが揃っていて、満足だった。さらに、ジムのランニングマシンの正面から船が進んでいる様子が見える構造になっており、そのような景色を見ながら走れるのは素晴らしかった。クルーズ中は食べすぎていたので、とてもいい運動になった。スパを使ってみたかったので、それは残念だった。
16. 昨年と同じ船に乗ったため、設備に関しては記憶していたとおりであり、特に変わった部分には気づかなかった。そういうわけで、全体的に懐かしさを感じた。船内は広く、似たような場所も多いうえ、入り組んだような構造になっているところも多いため迷ってしまいがちだった。
17. 各階ごとにヨーロッパの首都の名前が付けられているようだったが、具体的に各階の様子の違いがわからなかった。ただの名称として付けているだけなのかもしれない。また全体的にイタリアを意識されていて、10階のビュッフェなどは白亜の建物をイメージしたスペースがあり、とても統一感があった。
18. 去年も同じ船だったということもあり、他船との比較は難しいが、個人的には遊ぶ施設をもう少し増やして欲しいかなという印象である。遊べるスペースは私が見た中ではカジノぐらいしかなく、あとはパーティーやら船内イベントで取り繕っている印象であった。みんなで遊べるボードゲームや麻雀なんか置いてあれば、お金をかけずとも、友達同士で楽しめるのかなと思う。



19. 船内施設はとても充実していた。レストランなどの食事施設はもちろん優れていて上に、ジムにスパ、ディスコと娯楽施設が一か所に集まっていて、ここで何日過ごしても飽きないのではないかと思えた。できるならスパに行って、リラクゼーションを味わってみたかった。3人部屋だったからかもしれないが、部屋がやや狭いように感じた。
20. 船内施設は1週間の旅にはちょうどいいくらいの量であると感じる。すべて回ることはできなかったが、回りたいところはすべて行けたので満足している。縦に長いのが少し面倒であったが船なので仕方ないのかなとも思う。
21. 船内施設で私がよく行っていた喫煙所が、見たことないくらい綺麗で他の乗船客とも交流することができた場所だったのでとてもお気に入りの場所でした。また、デザイン的にはエレベーター前の階層を示すマークなどが凝っていたなーと思う。デッキも景色の見晴らしが良くて、気に入った。
22. カジュアル船と聞いていたが、船内は綺麗で豪華だと思った。ダンス教室やショーが開催される場所はバブリーな感じで、少し前の日本(?) ぽい感じだった。バーもたくさんあり、ワインもたくさん置いてあったので、イタリア感があつた。
23. 絨毯がワインレッドだったからかも知れないが、全体的に落ち着いた雰囲気の内装だと感じた。フロアごとの地名がどういう意味をあらわしていたのかは最後までわからなかったが、それもまた面白かった。ジャグジーでは椅子に座ったまま寝てしまうほど快適な時間を過ごすことができ、ひと時の休息を味わえる時間となった。

### (3) 船内サービス(ソフト)の感想(食事内容(レストラン・ルーム・カフェ・バー・サービス・オペレーション(キャビン清掃、ホテルレセプションサービス、カジノ、その他船内の各部門オペレーション))

1. 食事は種類の豊富さ・味ともに申し分なかった。また、深夜帯に営業しているレストランなどもあり利便性が高いなと感じた。清掃に関しても毎日滞りなく行われ、常に快適な状態で活動することができた。
2. 飲み物が空くとすぐに気づいて注いでくれたり、コース料理の手際が良いなど、ウェイターやウェイトレスさんのサービスが素晴らしかった。笑顔の対応やバーズデーサプライズの演出など、接客も良かった。中盤ぐらいから新しいシステムとして電子媒体を使用していたが、従業員の方々は突然の変更には戸惑っている様子だった。
3. 一番印象に残っているのは、キャビンの清掃です。ベッドを清掃するだけでなく、タオルを畳む時、ゾウの形に畳んでいただいたこと



は、とても細かいことですが心温まるエピソードとして今でも覚えています。また、旅行者の英語がそんなに上手でなくても、船員の人にはできるだけわかりやすく伝えようとしていることが伝わってきて、思いやりを感じました。

4. 味がまずかったらどうしようと心配していたがそんなことはなく、安心した。しかし一方で何を食べても同じ風味がするので、途中から少し飽きてきたのは困った。でも、フルーツなどが豊富なのでビタミンも取れ、好きな珈琲がたくさん飲めるのでどちらかといえば満足していた。また、清掃あとにバスタオルがゾウのようになっているなどの遊び心が楽しいなと思った。

5. コース料理が出てくるまでに時間がかかったことを除き、24時間好きな時間に好きな量の食事をとることができたことや、食事のバリエーションが豊富であったことから自分で好きなように時間を過ごしている感じがして嬉しかった。



6. 客室清掃の方々を含め、全体としてクルーの方々の対応はすこぶるよかったと記憶している。レストランで新たなシステムが導入されたことや、後半の二日間などは東京から多くの乗船客が乗りこんだできたことから回転率が落ちオーダーを取るのに遅くなったりサービスまでの時間がかかりすぎているなど感じた点も多々あったとも記憶している。

7. ・レストランは特に外国の高級レストランの雰囲気が出ていて非常にリッチな気分になった。・清掃が丁寧で毎晩気持ちよく眠れた。・ピザの場所は窯で焼いているところがすごいと思った。

8. ビュッフェの食事は常に用意されており、おいしくて満足だった。コース料理に関しては、出てくる時間が遅すぎると感じたことが何度かあった。食事に行くたびに、すれ違うとほとんどの店員さんが笑顔で挨拶してくれるのは素敵な文化だなと思った。

9. キャビンやトイレなど、清掃がきちんと行き届いていた点は非常に良かった。清潔であるということは信頼にもつながってくるし、クルーズ船全体への印象にもつながってくると思う。ただ、食事に関しては改善の余地があると思った。特に、食事を注文してから実際に提供されるまでのスピードが長すぎた。新システムを導入したばかりでオーダーの取り方になれていないとウェイターは言っていたが、それならきちんと研修等を行なってから使用するべきだと思う。食事のときの印象が旅行の満足度に与える影響は比較的大きいと思うので、リピーターを増やすためにも改善したほうが良いと考えた。

10. 食事の注文の受け方が乗船中に変わり、その新しいシステムに船員さんが追いつ

いていないように感じた。それまでの紙で注文を受けていたときのほうがスムーズに料理の提供もなされていたように感じた。基本的には、船員さんはみなさん人当たりよく、船員さんとのコミュニケーションで何気ない時間でも楽しむことができた。

11. 清掃は問題なし。しかしレストランのオーダーの取り方の仕組みを変えてからは、食事がサーブされる時間が席ごとに大きく異なるなどいくつか問題があった。しかしスタッフ自体の対応は極めてよかった。
12. 食事は非常に充実していたと思う。バイキング形式の朝食や、アフタヌーンティーも充実していたと思う。ベッドメイキングや室内の清掃も良くできていた。クルーも親身に応じてくれて気持ち良く生活することができた。
13. サービスのスピードが日によって異なっていたように思う。初日は食事が運ばれてくるまでにかなり時間を要したが、二日目以降はそれほど気にはならなかった。ただ、スピード重視であれば、レストランで食べるのは間違いだと思った。その他サービスも昨年同様だった。
14. 料理はどれも美味しく、またクルーの方も気さくな方ばかりで、毎回の食事は非常に楽しめた。また船内、船室の掃除は行き届いており、クルーズ全体を通して不快に感じることはなかった。大変多くのクルーがいる中で、社員教育が徹底されていると感じた。
15. 食事は非常に美味しかった。去年よりも美味しいと感じる場面が多かった。さらに、ドリンクパッケージのおかげで、毎食ごとにジュース、アルコールを楽しむことができ、食事の席の会話も弾んだ。レストランサービスとしては、誕生日サプライズに対応してくれたり、去年来たのを覚えていてくれたことが嬉しかった。今年は初めて朝食ブッフェに行ったが、レストラン会場のスタッフが、よく声を掛けてくれたので、朝からとてもいい気分でも過ごすことができた。

16. サービス面に関しては非常に満足である。特に、2日目の夜にバースデーサプライズをお願いした際は、事前をお願いしていなかったためご迷惑をおかけしてしまったと思うが、快く対応していただき嬉しかった。また、お願いしたとき、ケーキは1つしか用意できない、と言われたのに、実際には2つ用意していただいて



ても有難かった。クルーに感謝を伝えると、「楽しませるのが仕事だから」と笑顔で言って下さり、素敵な仕事だと感じた。

17. レストランに関しては、昨年と異なりドリンクが飲み放題だったのがとても素晴

らしかった。しかしながら不満な点としては、食事を注文した後食事が実際にテーブルに出されるのが1時間後のこともあり、配膳に関してはもう少し改善できる点があると感じた。

18. 食事について細かい指摘になるが、水を安そうなペットボトルのまま注いでいるというのが場の雰囲気としてどうなのかなと思った。せめて違う容器に移し替えるなりして、雰囲気を壊さないようにしてほしいなと思った。私は味音痴なので食事についてはどれも美味しく感じられた。
19. 2でも書いたが、今回のクルーズにおいて1番満足したのが船内サービスである。食事は本当に美味しかった。毎食毎食、美味しいものばかりで食べ過ぎてしまい、クルーズが終わると体重が2キロも増えていた。和食もあり、様々な国の人が楽しめる食事であった。
20. 食事は思っていた以上に残念であった。もし自分が10万以上払ってあのご飯が出てきたらかなり萎える。美味しいと思った料理はなかった。しかし、外国船なので清掃には期待していなかったがとても清潔ですごく良かった。
21. レストランの食事は朝ごはんがほぼ同じものだったので飽きは感じたが、ディナーは自分でメニュー選ぶことができたので、ワクワクした。また、バーなどのお酒は有料であったが、とても美味しかったし、雰囲気もとても良かった。
22. コスタカードのバーコードが上手く印刷されていなかったため、初日からカスタマーサービスに行くことになったが、日本語対応のスタッフの方がいて、英語ができない私でもスムーズに対応してもらうことができた。ルームキーパーや、レストランのウェイター全員がフレンドリーな人が多くて、毎日会うのが楽しみになっていた。
23. 普段は味わえない独創的な海外料理を食べ放題できるという夢のような毎日に大満足だった。客室に関しては、清掃時以外(たとえばToday配布時)に勝手に入られていたのが少し気に障ったが、それも海外らしさなのだろうなと思った。また、船内を歩いていると、船内が広いというのもあるからかもしれないが、常にどこかしらを清掃しているクルーの姿が見受けられた。船内が常に清潔に保たれているのはとても気持ち良かった。

#### (4) 船内SHOW, エンターテイメントの感想(船内鑑賞イベント全般、プロダクションショー)

1. 毎日異なった内容のイベントが行われ、またショーそのものも非常に魅力的であったことから観ていてとても楽しかった。特にミュージカルはイタリア語で行われていたものの、内容がはっきり伝わってきて楽しむことができた。
2. マジックショーやダンスパーティーなども楽しかったが、その中でも3日目の夜に見たミュージカルが心に残った。ミュージカルを見る機会が普段あまりないた

め、本格的な本場のミュージカルを生で近くで観ることができて本当に良い経験になった。

- マジックショーが初日にあったのですが、同じようなものをテレビで見ているからあまり面白くないのでは？と思っていましたが、生で見る臨場感はやはり想像をはるかに超えていました。またマジックのタネも全然わからなかったのも面白かったです。

- ミュージカルが最高に魅力的だった。連日同じ人が出演していたので、芸の豊かさに驚き、惚れ惚れした。近くで席を取ることができたときは、パフォーマーと目が合ったように感じ、特に目を奪われた。また、イタリアの船だからかも知れないが、パフォーマーもラテン系の白人が目立つなあと思った。



- 私は今回のクルーズで何よりも船内ショーを楽しみにしていた。ダンサーが踊る場所と観客席が同じフロアであったため、迫力のあるショーを楽しむことができた。
- クルーズ専属の出演者の方々に、皆さん見覚えがあるなあと後半は感じてきていたが全体としてショーのクオリティは高いほうであったと感じた。イタリア語の歌などは内容はつかめなかったけれども、演者の方々の魅力的なパフォーマンスのおかげで存分に楽しむことができた。
- ・普段は生で見ることのできないミュージカルやダンス、歌手のリサイタル、マジックショーを追加料金なしで見ることができたので非常に満足している。・各界の一流アーティストが自分の目の前近くでパフォーマンスするのが楽しかった。
- パフォーマーたちの表情がとても印象的だった。笑顔はもちろん、いろんな感情を顔で表現していたので引き込まれた。ダンスもとても魅力的で、特にラテンダンスは最前列を必死でとるくらい気に入った。
- ラテンダンスのショーとミュージカルが非常に印象に残っている。ラテンダンスのショーは人生で初めて鑑賞したが、非常に面白かった。このように、今まで興味を持つ機会がなく触れてくることが無かったものを、自分の肌で体験するチャンスを与えてくれるのも、閉ざされた空間で非日常体験ができるクルーズの魅力だと感じた。また、個人的に、ミュージカルに出演していた男性のテノール歌手には非常に感動した。
- 普通なら高いお金をはらって鑑賞しなければならないようなショーを、自由に観ることができる環境は本当に贅沢なものだった。プロの歌手の歌声や、ダンサーのパフォーマンスを生で鑑賞できる機会はめったにないので、8日間のクルーズに

において最も有意義な時間の一つだったと思う。

11. タンゴのショーなど、とても情熱的で今まで見たことのないものだった。目の前で見られたこともあり、大変感動した。その場面で観客が感じたであろう憧れや、自分もやってみたいといった願望も、昼や夕方のダンスレッスンで満たされるなど、満足度は大変高かった。
12. 船内のショーやエンターテインメントは自分にとっては真新しいものであり、非常に面白かった。しかし、中には内容が重複していたり、一度見れば十分なものもあった。多くのエンターテインメントがあったので、今後機会があればいろいろ試してみたい。
13. ショーの内容は、一部を除いて変化していてよかった。担当の人が代わったとかが理由なのかもしれない。ただ、マジックショーに関しては、直接見なかったが、昨年と同じであったと聞き、逆に見たくなかった。デッキでショーを昨年はしていたと思うが、今年は見れずに少し残念だった。
14. 船内のショーは学生には大変楽しめるものであった。一方で、ある程度は仕方ないことだとは思いますが、この閑散期の乗客の多くを占める高齢の方々が楽しめるものであるのか疑問に感じた。夜は派手なショーがメインであったが演奏会などがあってもよいのではないかと感じた。
15. 今年のミュージカルは、さまざまな国の音楽とダンスを楽しめるもので、非常に面白かった。また、同じダンサー、シンガーの方でも、場面によって、衣装、演出が違うだけで、全く違う役を演じ切っており、とても感動した。見終わった後、ミュージカル劇場にミュージカルを見に行ったような気分になり、船の上ということのを忘れそうなくらいだった。
16. ショーの内容が昨年と同じであったため、新鮮な感動を覚えることはあまりなかったが、楽しんで鑑賞することができた。ダンスや歌、マジックなど、とても上手で、心躍るような時間が過ごせた。
17. 船内のショーも昨年に引き続き楽しませてもらった。またバーレスクやオペラなどの鑑賞も行うことができ、船内で高級感を味わうことができた最も大きな要因だったのではないかと感じている。同じダンサーでも、毎夜ごとに違うダンスを披露してくださり、とても感動した。
18. 全体的に中高年むけの船内イベントだったので、心のそこから楽しめたというわけではないが、世の中の裕福なお年寄りたちはこうやって余生を謳歌するのだなということをも身を持って体感できた。マジックショーは去年と内容が全く同じで少し残念だった。ダンスは昨年と変わっていて楽しめた。
19. 2日目の夜のダンスショーは非常に妖艶で、女の私でも見とれてしまった。少し刺激が強いようにも感じた。船内鑑賞イベント全体に当てはまることだが、もっと早く席取りを行って、前の方の席に座っていたら参加することも出来、更に楽し

めたのだろうと、少し残念に思った。

20. 様々な国のダンスを見ることができたり目の前でミュージカルをやってくれたりしたのは、クルーズ船ならではの醍醐味だなと思った。マジックはちょっとしょぼかった。また、アイルランドに留学していたためアイリッシュダンスがとても懐かしく感じた。

21. 船内でのマジックショー、ピアノの演奏、劇など毎日内容も変更されていて、鑑賞型と参加型に分けられているのもあって、とても良いと感じた。また、ショーなどのイベントが時間によって分けられているので参加しやすかった。



22. ラテンダンスはこの船に乗って初めて見た。この旅行でとてもハマった。マジックショーなどもあり、また観客参加型であったので、見るだけじゃない楽しさも経験できた。クルーのメンバーを紹介するショーもあって、船長やチーフの方にも会えて嬉しかった。
23. SHOWはあまり観ておらず、ホワイトナイトも船酔いのため夜は参加できなかったため、イベントはあまり体験できなかった。しかしマジックショーを生で鑑賞する機会などないのでとても感動した。そういうエンターテイメントがどれだけクルーズ料金に反映されているかは分からないが、気分的には無料という意識となるので、楽しめた。

#### (5) 船内体験施設・内容の感想（ジムなど）・体験型イベント（ダンスPARTYなど）

1. 船内体験施設に関しては、乗客を飽きさせないような工夫が凝らされていると感じた。ダンスに関しては、ホワイトパーティーや仮面パーティーなど準備を要するものもあったものの、非日常が味わえた。
2. ジムやカジノは本格的であった。ジムは一日航海の日に利用したが、海を眺めながらランニングマシンを使用するのはとても新鮮だった。ダンスパーティーは毎日行われていたが、日毎に曲のテイストが異なっており飽きなかった。また、ホワイトパーティーや仮面パーティー、フォーマルナイトなど、普段経験できないことをさせていただき、非日常要素が高かった。
3. たった1週間ほどでしたが、何回もパーティーがあり、全て飽きずに楽しむことができました。特にイタリアンパーティーではレストランで踊るということもあり初めての経験でしたが、みんなで歌って踊るといのはやはり楽しかったです。
4. 仮面パーティーやホワイトパーティーなどの日には船内の飾りつけが変わっているような心遣いが楽しかった。ダンスをみんなでするような経験は初めてで刺激的で

はあったが、個人的に自分の声が小さく、大きな音は苦手なので、長時間いるのは難しいなと思った。

5. 船の先端にジムがあったため運動しながら海が見えるという感覚は運動しているという感覚そのものをなくしてくれ、楽しく運動を続けることができていることに驚いた。また、ドレスコードが定められているホワイトパーティーなどが非日常を一番感じられて楽しかった。
6. ジムは一度しか利用することができなかったけれども、海上で運動しそこから眺められる海はとてもきれいに感じた。イベントに関しても、普段の生活と比べればあきらかに非日常であり、フォーマルな服装やダンスなど未知との遭遇体験をすることが出来たといえるであろう。
7. ・ダンスパーティーはクルーの人が盛り上げてくれたので内気な日本人でも前に出て踊りに行けやすくしてくれたのがよかった。・ホワイトパーティーや仮面パーティーは初めての経験で非常に楽しめた。・ダンスのステップも丁寧に教えてくれるのでいい経験になった。
8. パーティーは非日常体験ができるので、クルーズの大きな魅力だと思う。乗船客にとって参加しやすいのもよかった。パーティーを通して普段かかわることの無い人たちともかかわることができた。
9. 船内体験施設での活動・各種パーティーを通して、たくさんの方々と交流できたことがとても良かった。スマート・クルーズ・アカデミーに参加している学生・先生との交流はもちろん、初対面でいわば同じ船にたまたま居合わせたただけの方々とも楽しく交流することができた。初対面の方々とも気兼ねなく会話できる環境も、クルーズという旅行の形ならでは楽しめる醍醐味だと感じた。ただ、やはり、非日常空間で（お酒も入った状態で）ゼミ生・先生との仲を深めるきっかけになった各種パーティーが最も印象的である。
10. 船内のジムは期待以上に設備が整っていて、わたしが行ったことのあるジムと比べても引けをとらないようなレベルだった。体験型イベントでは、普段の生活ではなかなか体験しないようなことができ楽しかった。とくにダンスパーティーは、クラブ等に行かないとなかなか経験することはないだろうし、わたしには縁のない世界だと思っていたので、みんなとこの時間を共有することができてよかった。
11. クルーズに乗っているだけでも異文化なのに、仮面パーティーに参加することでさらに非日常感を味わえた。しかし乗船客の中でも、そういったドレスコードを守る人と普段の格好でいる人に分かれていて気持ちが入りきらず、少し残念だった。



た。

12. ジムの設備は十分良かったと思う。クルーズという場所の特性上、運動不足が多少懸念されるかもしれないが、あれなら十分体を動かすことができると思う。ダンスパーティーは最初は苦手意識があったが、慣れてくると楽しむことができた。しかし、自分にとって新しい文化?であったので、多少の戸惑いは覚えた。
13. 様々な服を持ち込んだが、最終的にすべての服を着ることになった。ホワイトパーティー等のイベントに、ほかの乗船客も参加していて安心した。ジムでは昨年と同じような運動をしたが、少し体力が落ちたように感じた。そのほかのパーティー等では、昨年と少し違った楽しみ方ができたように感じる。
14. ダンスは踊りやすく楽しいものであったが、日本人はあまりついていけないように感じた。イタリアをイメージした船ではあるが、連日連夜同じようなダンスが続くので、もう少し趣向を変えた、盆踊りのような、親しみやすいダンスがあっても良いと思った。
15. 今回のクルーズで印象に残っているのは、2日目の夜ダンスパーティと3日目夜のミュージカルだった。ダンスパーティでは、去年と同じく普段は体感できない気分の高揚を感じた。海外の方がとてもノリノリで踊っていたので、それにつられて去年よりも思い切って踊ることができた。また、今年のダンスパーティは幼い子供から、ご高齢の方まで、さらに色々な国から来た人が参加していたので、出身国も年齢もバラバラの人々が一つのダンス会場で同じリズムに乗って踊っている雰囲気はなんとも言えない程、賑やかで楽しいものだった。途中下船で、去年と同様に仮面パーティに参加できなかったのが残念だったが、船内の乗客が皆一つのテーマに基づいた衣装を着て、イベントに参加するというアクティビティーは、乗客同士の交流を生み出したり、クルーズならではの非日常の雰囲気を醸し出すので、非常に魅力的であると思う。
16. ダンスの雰囲気は昨年と少し違うように感じた。ゼミ生と踊る機会は普段なかなかないが、みんなでリズムにのって楽しく踊ることができた。また、昨年行かなかったカジノに行き、雰囲気を味わうことができて良かった。一方で、スパやジャグジーを体験することができなかったのは残念である。
17. 特に今年は船内イベントに多く参加し、よりほかの乗客と接する時間が増えた気がした。クルーズ客の多くは高齢者なので、若い乗客が目立っていたのは少し居心地が悪かったこともあった。ただ、全体的にとっても楽しませてもらった。カクテルパーティなどは特に参加層の違いを意識することもなく、ただ楽しい時間を過ごすことができた。
18. 今年は去年よりも積極的にダンスに参加したし、同期や後輩もみんな楽しそうに踊っていたので、とても楽しかった。知らないおばさんと手を取り合って踊りもしたし、知らない外国人と意気投合したりもして、ダンスを通じてたくさんの交

流ができた。ただもう少し若い人も知っている流行りの曲を流してほしいと思った。

19. ダンスPARTYは、最初は前が出る気なんて微塵もなかったが気づいたら前に出てノリノリで踊っていた。ミラーボールに照らされた非日常的なフロアで、盛り上げ上手な出演者の方にノせられ、我を忘れて夢中になって踊っていた。いい汗をかいたし、非常にストレス発散になった。
20. 乗客が少ないのとターゲットが上の世代なのではないと思うがバブリーダンスをさせられるのは正直楽しくなかった。ノリだけでは毎度毎度のパーティーで同じことをさせられても楽しさはなかった。違う内容のものが欲しい。
21. ダンスパーティーは最初は参加するのに戸惑ったが、クルーの方が連れて行ってくれたりして、とても参加しやすかった。また、参加するとやはり楽しいと思えた。ジムなども体を動かす機会を得れたのは大きいと思う。

22. 初めてダンスパーティーに参加した。踊り方とかはわからなかったが、みんな踊っているし、場の雰囲気もあり、楽しむことができた。オールホワイトのコーデや、仮面をつけて何かに参加する機会など、今までにはないので、初めてのことがたくさん経験できた。
23. ジムでは主に走っていたが、ほかにも面白そうな機械をいくつか試してみた。



まさか人生初の事務が船の上のなるとは思わなかったが、やっぱり久しぶりに汗をかくのは気持ちがよかった。ただ、ランニングマシンから降りたときに船の揺れも相まってかなりふらふらしてこけたので、次からはそこに気を付けたいと思う。

## 第3部 <各港での対応及び魅力>

### (1) 乗船・下船港(神戸)での感想(港・ターミナルの施設評価、乗船時対応の感想など)

1. 日本有数の港ということもあり規模が大きいなと感じた。乗船時の対応もきちんと行き届いており、かつ必要以上に厳格ということもなかった。それ以外の面でも、荷物を預かるサービスなども用意されており良かった。
2. 神戸港では職員の方がお迎えくださり、バッチやボールペンなどの記念品をいただき嬉しく思った。ターミナルは白を基調とした広々とした創りで、ターミナル内の大きな窓からはクルーズ船を臨むことができた。挨拶をしてくださった職員の方がクルーズ船に乗ったことがないとおっしゃっていたので、研修のような形でクルーズ船に乗船する機会を設け、その魅力を知っていただいた方がいいのではないかと感じた。
3. 神戸に住んでいるが、恥ずかしい話今まで神戸港へと行ったことは無かった。150周年の神戸港を迎えた時、たくさんのセレモニーをしていたが、あまり実感が湧いていなかったと思う。初めて今回神戸港から乗船してみて、出稿後の夜景などは本当に感動した。自分の住んでる街を海から見てみて、山が近く、海が近い神戸の良さを実感することができた。
4. 荷物検査がかなりさっくり終わって驚いてしまった。別に何を持ち込むわけではないが、荷物検査といえば飛行機検査のような厳しいものをイメージしていたので、荷物をスキャンする機械にも通さなくていいのかなあと少し不安になった。港自体は想像していたよりも大きく、空調も快適で清潔なイメージを受けた。
5. 思ったより施設自体は閑散としており、周辺にコンビニ等もなかったことから船に乗ると言うことが日常生活から離れた行為であることを実感した。しかしその分、神戸市の方が丁寧に対応して下さり嬉しかった。
6. 出港の際は神戸港の夜景も楽しむことができ、これから始まる船旅に心躍らせるようであった。気候に際しては、船で過ごした日々から日常に戻りがたく名残惜しさが否めなかったが、着岸の仕組みなどを実際に船上から目にすることもできそれもまた貴重な体験であると感じた。
7. ・港の搭乗口は広く、開放感があった。・下船時の税関検査が少し甘いなと思った。・ターミナル施設にはもう少しいろいろなものを加えたらいいと思う。
8. 神戸は乗船下船地なので私自身は気にならなかったけど、他の港から乗船した人たちからすると、もう少し歓迎行事などがあってもいいかなと思った。港自体は建物もしっかりしていて、きれいでよかった。
9. 海から「出国」という経験が初めてだったので新鮮だった。ターミナルの施

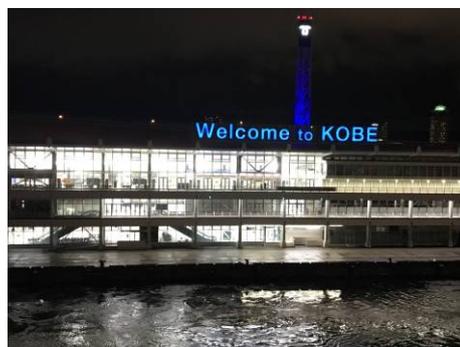
設に関して、ターミナル内（もしくはターミナルの近く）にコンビニエンスストア等の売店があったらもっと便利になると思う。というのも、三宮でポートライナーに乗ってから、荷物を持って歩いて行ける範囲に1つも売店・コンビニ等がなかったからだ。

10. 神戸港は、きちんと人とモノのすみわけがなされていて、古くから港として発展してきただけのことはあるなど実感した。神戸港の整備をほかの地方港がまねるのは、経済的にも立地条件的にも難しい点も多いだろうが、そのなかでも各港の参考になるところが多数眠っているのではないかと興味深かった。
11. すべての寄港地を通して考えてみても、神戸港は比較的綺麗で設備も整っていたように思う。
12. 港・ターミナル施設への交通のアクセスが良かった。モノレールの駅と直結しているので場所もわかりやすかった。神戸港の職員方も親切に対応してくださった。乗船時の手続きもスムーズで、特に不満もなかった。
13. 乗船、下船両方に神戸市のひとに対応していただき、とてもよかった。クルーズ用のターミナルを用意している町として、クルーズ船の誘致には特に困ることなくやっていけそうな街だと思った。特に去年は舞鶴港からスタートだったため、とても大きなギャップを感じた。
14. 乗船当日は雨だったが、アクセスが良く、またポートライナーの駅に直結していて雨にぬれることなく乗船ででき、とても快適だった。一方で、神戸港のような立派なターミナルを全ての港で整備する必要はなく、費用対効果に見合った簡素なつくりのターミナルでも問題はないように感じた。
15. 博多下船だったので、乗船時の感想のみ述べる。神戸港では、職員の方々が温かくお見送りして下さり、そこから始まるクルーズがより一層楽しみになった。職員の方の、社会人になると長期のクルーズに行くのは難しくなるため、今回のような経験はとても貴重であるというお話を聞いて、貴重な経験を存分に楽しもうと思った。また、乗船前の記念撮影ブースがあるのも、クルーズ客を乗船前から楽しませる工夫であると感じた。
16. 神戸のポートターミナルを初めて訪れたのだが、立派できれいな建物であり、さすが神戸だなと感じた。また、三宮からそう遠くなく、最寄り駅と直結しているため、クルーズ船の観光客にとってアクセスしやすいと感じた。
17. 私は昨年度もこのコスタネオロマンチカに乗船したが、去年は京都の舞鶴港であった。それだけに今年の神戸港の設備の充実度にはとても驚いたのを覚えている。



また、海に向けて「WELCOME TO KOBE」と書いた看板が設置してあったのがとても印象に残っている。

18. 神戸について特に印象的だったのは出港後船の上から見た神戸の夜景である。キラキラと輝く神戸の街並みと赤や黄色など様々に彩られた港の風景は、言葉に表しがたいものがあり、これが一つの観光資源なのだと心のそこから実感することができた。それをクルーズの上という一番贅沢な位置から眺めることができるととても幸せであった。神戸港三宮間のアクセスもポートライナーを利用してすぐだったので交通インフラも充実していると感じた。



19. 港は駅に近く、非常にアクセスが良いと思った。これが神戸港がクルーズ船の誘致に向いている1つの要因だと思う。また港の整備も進んでおり、外観も綺麗だった。特に神戸港を出港するときにコテージで見た夜景は、本当に綺麗でロマンチックだった。
20. 電車がすぐ近くにあるのはとても楽だったが、効率良く人を入れることだけに特化されている印象であった。自分は歓迎などに興味はないので満足であるが外国人のためにはもう少し何かしてもいいのではと思う。
21. 神戸港は最初乗り換えが分からなかったが、ターミナルも大きく、施設も使いやすかったが、コンビニなどが近くにあるとより一層便利なものになると感じた。待ち時間を潰すのは少ししんどかった。
22. 税関のイメージは、空港のイメージしかなかったので、思っていたよりもこぢんまりとしていて、検査も飛行機に乗るときよりも随分楽だった。また、乗船当日は雨が降っていたので、船のクルーの方が傘を差してくれて、対応に感動した。
23. 正直港は何もなくてさびれている感じがした。空港とは違って人も少ないし、賑わい方が全く違って驚いた。

## (2) 釜山港での感想（乗船下船時対応・ランチ・BPAツアー(参加者のみ)・寄港地の魅力)

1. 今回の釜山港への寄港が自分にとって初めての海外訪問であったこともあり、視界に映る多くのものが新鮮に感じられた。現地でのランチも、やや辛みが強かったものの本場らしい味という感じで風情が感じられた。
2. 釜山港を降りてから利用したバスは日本語対応であったが、中国語と日本語での案内しかなく、英語圏から来たと思われる旅行者が困っていた。ランチは韓国の伝統料理を用意していただいた。本場で韓国料理を頂くのはこれが初めてであっ

たが、とても辛く感じた。

3. 世界最先端・最高峰の釜山港の設備等を見ることができた。「電子化するべきところは電子化する」テクノロジーと物流の進化に伴って港が変化していくということをBPAで目の当たりにして、変化を受け入れていくことの大切さを改めて感じた。また、初めての韓国だったが、思っていた以上に日本語表記があったことには驚いた。
4. 下船してすぐに乗ったバスがあまりにも派手で、ああ日本の外に出たのだなと感じられた。バスの段階で海外を感じられるのは個人的には楽しかった。釜山はインスタを好む若年層への対応力が高く、そのために作られている部分も多かったので、感心した。また釜山が寒かったので、帰って来たときにあったかいお茶を出してくれたことに心温まった。
5. 想像していたより下船の手続きが滞ることなく進み、また市内に出るためのシャトルバスまでの誘導も丁寧にして下さりスムーズに観光できたことに驚いた。私たちが寄港した時期も関係しているかもしれないが、釜山自体がそんなに混み合っておらず観光し易かったことも良かった。クルーズ船の寄港地として混み合っていないことも大切な要因だと感じた。
6. 乗船後初めての寄港地であり、また初めて韓国・釜山の地に降り立ったということで入港する際は港から見える景色などすべてが真新しく感じた。ランチに関しては辛いものが多く私自身辛い物が不得意なこともあり少々戸惑いもあったため、多少時間がかかるかもしれないが、フードロスの点なども考慮すれば好きなメニューを決められた価格内で決めるという形をとってもよいのではないかと思う。観光に関しては文化村を訪れ、素晴らしい景観と観光地ならではの雰囲気を感じることができた。
7. ・外国から来た客に対しての税関検査がもう少し厳しくてもいいと思った。・韓国の伝統的な家庭料理を楽しめてよい体験となった。・BPAでのプレゼンは今回のクルーズ参加で最も勉強になった物のうちの一つで、公的機関で専門の話を知るのは貴重だった。
8. 無料バスでの送迎があるのは便利でいいと思う。釜山は昔ながらの港とショッピングができる繁華街が近くにあるので、様々な楽しみ方ができる点で魅力的だった。私が訪れた文化村は、ほとんどの観光客が韓国の若者で、活気があってよかった。
9. まず、今回のツアーで唯一の「外国」であったが税関での出入国審査もそこまで



厳しくなかったため少し驚いた。また、個人的に非英語圏の国へ行くのが初めてだったので言葉の面で少し不安を感じていたが、どこへ行っても大体は英語・日本語が通じたのでその点も驚いたし、外国人観光客を呼び込む観光地として良い点の1つだと思った。さらに、文化村への移動でタクシーを用いた際の運転手の対応も非常に良かったのが好印象だった。やはり、寄港地の魅力を語る上で現地で関わった「人」の印象がとても大切になることを再認識した。

10. 釜山港は、今まで見たことのある港の中で一番発展していて近未来的な印象を受けた。地上からのアクセスもよく、重要な港の役割を担っていることが伝わってきた。一方で、街中に入ると、東南アジアの市場のような印象を受ける場所もあったりして、そのようなところは韓国の抱える課題なのかもしれないと思った。



11. 神戸港に比べると少し見劣りするものの、清潔感のある施設だった。乗船客によって話す言語を変えているようで、当たり前と言ってしまうとそれまでだが、いざ日本語での対応を受けると嬉しかった。バスターミナルでは現地の大学生も活動しており、刺激を受けた。
12. 港の下船手続きはスムーズだった。港の入り口に紙幣の交換をしつこく申し出てくる韓国人男性がいて少し戸惑ったが、これも経験だと思った。BPAでは韓国職員の方と英語を通じた交流という貴重な体験ができた。ただし、内容としては少し物足りなかった。もう少し他の職員の方と英語で交流したり、現地を視察したりと内容の幅を広げてほしいと思った。
13. 釜山は下船前から理由はわからないが、韓国に来ているということ強く感じた。韓国料理の辛さに驚いた。彼らは毎日のようにあれを食べているのだろうか。食事後に観光をしたが、言葉が通じなくてもどうにか慣れてよかった。たまに韓国人は英語が得意だとか言う人がいるが、そういう人に韓国でタクシーに乗っていただきたい。
14. 二回目の寄港となった今回はBPAツアーに参加させていただき、釜山港の戦略を学ぶとともに、それを通じて港湾投資に関する日本と韓国の違いなど知見を広げることができた。これまで、クルーズ船と商業船の住み分けができていた港をそれほど見たことがなかったので、その経緯などが知れて、とても有意義な時間を過ごすことができた。
15. 釜山港は、夜景が非常に魅力的であり、強く印象に残っている。虹色に光る橋と、釜山の夜景は非常に幻想的だった。さらに、それを船から見たので、その綺麗な景色がだんだんとおざかっていく様子もクルーズならではの印象だった。ランチ

では、たくさんの種類の韓国料理を食べることができたので満足だった。また、初めて食べる韓国料理もあったので、さらに料理を楽しむことができた。

16. 1年ぶりに釜山を訪れたが、港の大きさや街並みには再び圧倒された。また、ランチでは伝統的な韓国料理を体験することができ、とても良い経験になった。そして、BPAでの説明を受けて、釜山港の規模や重要性を知ることができた。
17. 釜山は去年に引き続き今年も立ち寄った港だが、去年とは違う岸壁だったようである。そのせいか下船時の印象が去年とは少し違っていた。このように下船する岸壁によって港の印象が変わるのもクルーズ船の楽しみ方の一つではないのかなと感じている。
18. 釜山港は今回のクルーズ旅行で訪れた寄港地の中では最も成功していると感じ受けられた港湾であった。しかし、コスタが停泊した岸壁はとても殺風景なものであり、そこが一つ残念であった。私はBPAツアーに参加したのだが、釜山港が上海をはじめとする周辺の港とは明確に異なる役割を果たしているということがよくわかった。また各港湾が直面しがちな貨物と旅客の混在という問題にも新たな岸壁を整備するという対策がなされていて、日本の港湾が参考にすべき点がたくさんあると感じた。
19. 釜山では買い物を楽しんだ。メインストリートには、流行の服やコスメが安く売っている店が、数多く立ち並んでいた。お店の外観も可愛くて、見ているだけでワクワクした。そして、どの店にも1人は日本語を喋れるスタッフがおり、丁寧に買い物をサポートしてくれた。これは多くの日本人が韓国を訪れる際の、大きな魅力だと思う。
20. 釜山はとにかく汚かった。事前に調べた内容だと、日本でいう大阪のようところで治安は良くないとのこであったがそんなことはなかった。ランチは何を食べているのかわからないままで嫌だった。視察は釜山が世界2位の港だとは知らなかった上、上海との差別化をして大きくなっていることが知れてよかった。
21. あらかじめ下船には時間がかかると聞いていたが、釜山港ではそんなに時間を機にすることもなく、下船でき、バスで釜山の市街地まで行けたのは良かった。ランチのお店も美味しく、視察も満足な結果となった。
22. 初めて韓国に行き、本場の韓国料理を食べたが、辛すぎる上に、箸休めできるものがなくて、韓国の洗礼を受けた。その後は橋本ゼミで観光をして、韓国らしいお土産を買うことができた。初めての韓国だったが、観光時間が少なかつたため、また行きたいという気分のまま終わった。
23. ランチは欲を言えば掘りごたつがよかった。メニューに関しては、想像通りすべ



てが辛くてキムチやのりが美味しかった。国際市場などを歩いていると、あちらこちらから日本の語が聞こえてきて、韓国語はおろか英語すら話せない自分に少し劣等感を覚えた。

### (3) 博多港（福岡）での感想（乗船下船時対応、視察コンテナポートツアー・寄港地の魅力）

1. 神戸港と同じく日本で有数の港ということもあり、規模そのものも大きくコンテナの視察も大変興味深かった。また、博多の市街地も今回が初の訪問だったので都会的で洗練されているように感じた。
2. 新宮のような地元の人々によるおもてなしは見られなかったが、港の職員の方々がコンテナの整備や運搬、役割について詳細に説明してくださったのでとても勉強になった。バスで一つ一つの現場近くまで送ってくださるなど、親切な対応をしていただいた。寄港地での滞在時間が短かったため、目的地を全て回りきることはできなかったものの、それもクルーズの魅力のうちの一つであると感じた。
3. 博多港では実際にコンテナなどを間近で見ることができとても良い機会だったと思う。ハイブリッドのストラドルキャリアなどを導入していると伺った。実際に釜山のように電子化できないかと質問した際に、労働者の雇用関係との調整ということを頻りに仰っていたのがとても印象的で、社会の発展の限界を感じる部分でもあった。



ないことなので非常にためになった。・日本の最新技術を目の当たりにできたことはいい経験だった。・寄港地はバスで様々なところへ行くことが可能に思えたので外国人には人気のスポットになると思った。

8. 歓迎行事があまりなかったという印象がある。視察では、この機会がなければ目にすることが無いであろうコンテナポートを見学でき、貴重なお話も聞けて良い経験になった。博多は港、空港、中心地が近く、アクセスが良い観光地だと思った。

9. コンテナポート視察ツアーがとても興味深くおもしろかった。スマート・クルーズ・アカデミーの前に参加した神戸港ツアーの時に初めてコンテナ・コンテナ船を見学し、私自身「物流」に対して興味を持ち始めていたところだったので、実際にコンテナが運ばれるところやそのシステムを



間近で見学できて非常におもしろかった。特に、冷凍設備がついたコンテナやストラドルキャリア・トランスファークレーンの見学など、実際に現地で体験しなければわからないような迫力を感じられた点がとても良かった。

10. 普段立ち入ることができないようなコンテナポートを見学させてもらうことができ、わたしたちの生活を物資面で支えてくれている港の役割を実感した。カラフルなコンテナは、無機質な工場が立ち並ぶよりもずっと港の景観として適していると思う。
11. あんなにたくさんのコンテナを見たのは初めてだった。しかし移動中の車内で、前日釜山でBPAツアーに参加していた伊勢本くんに釜山での貨物取扱量を聞き、その多さに驚いた。博多でもこんなに多いのに、その何倍もある釜山の、港としての価値に気づかされた。
12. 博多港での乗船下船はスムーズだった。現地の視察では、様々な場所を訪れ、たくさんの貴重な話が聞くことができ、内容的にも充実していたので良かったと思う。ただ、欲を言うのであれば、視察の時間を多少減らして自由時間に回しても良いと思う。
13. 博多港は昨年同様で簡素でありながらしっかりしているなと感じた。視察では、貨物のコンテナをみたが、普段できない経験ができてよかった。あの場で聞いた機器の名称は忘れてしまった。しかし、電気を使用したものを導入するなど、環境に配慮しつつ仕事をしているということで、とてもいい印象を受けた。
14. 博多の中心部に港が近く、下船後すぐに市街地にむかうことができるのは大きな強みであると感じた。またコンテナターミナルの視察では、前日にBPAで教わったことを頭に入れながら、博多港を見学し、ただ感心するだけではないこれま

でとは違った見方で博多港について考え、学ぶことができた。

15. コンテナポートツアーでは、今まで神戸港クルーズなどで、遠くからしか見たことのなかった湾岸のコンテナ施設を間近に見ることができ、想像していたよりもそれらは大きく、そのスケールの大きさに驚いた。また、温度調節のできるコンテナなどは、今まで知らなかったのも、新しい発見だった。
16. 船からターミナルまで、昨年と同じ通路を歩いて懐かしく感じた。コンテナポートの視察では、コンテナやいろいろな機械を間近で見ることができて面白かった。先日は空路による物流の現場を、今回は船による物流の現場を視察し、物流を様々な視点から学ぶことができたと感じる。
17. 博多港で特に印象に残ったのは、やはり自治体の方が案内してくださった博多港の物流施設である。旅行で港を通りがかった際に遠巻きに見かけるいろいろな機械の名称を知ることができたのがとてもよかった。また、日本の物流の実際を知ることができたのもおおきな学びとなった。
18. 博多港ではコンテナポートの視察をしたが、たくさんあるコンテナを一つの操舵室によって一元的に管理し、いち早くIT技術も導入して作業の効率化を図っているというところに先進性を感じた。実際にコンテナの配送の動きや冷蔵機能のあるコンテナなどを視察して、港における仕事の流れが具体的に理解できた。を視察して、港における仕事の流れが具体的に理解できた。
19. 下船時にこちらの不手際でゼミ生が遅れてしまうこともあったが、待ってくださり感謝している。コンテナはカラフルで、屋上から見た時インスタ映えしそうだなと思った。良く晴れた青い空に、オレンジや赤などのコンテナがよく映えていた。使われているリフトや、機会を間近で見せていただくことも出来、とても楽しかった。
20. 博多ではとにかくコンテナの近くに行けて感動した。トラックにコンテナを積んでいるところも見ることがなだったので興奮した。欲を言えばコンテナがどのように管理され置く場所を決められているのかが気になったので聞けばよかった。
21. 福岡港のコンテナ視察は、普段行けるような機会などそうそう無いので、とても良い経験をしたと思っている。また、福岡市の職員さんとも話す機会があり、もっと日本の外交や流通事情についてより一層学ぶ機会が欲しいと感じた。
22. 間近でコンテナを見られて感動した。コンテナやそれを扱っている寄港地についての知識は何にも無かったが、視察に行くことができて良かった。観光時間はほんの少ししかなかったが、国内で、駅の近くに施設が揃っているということもあ



り、短時間でも有意義に過ごすことができた。

23. やはりコンテナの視察が一番印象に残っている。施設内に入るのもまじかで動いているところを見るのも初めてでとてもワクワクした。特に、荷物のすべてをGPSで管理しその情報を共有することでスムーズに荷物を運搬していることを知ってとても感心した。ぼーっと見ているだけではわからないことをたくさん知ることができてとても貴重な体験になった。

#### (4) 新宮港の感想（乗船下船時対応・神社ハイキングツアー・意見交換会・寄港地の魅力

1. 世界遺産のある町を観光できる機会はあまり多くなく、そういった意味でも貴重な経験であった。また、出港時には多くの店が港に立ち並んでいたことに加え、観光協会や多くの地元の方々による見送りをしていただき、感動を与えられた。
2. お迎えやお見送りなどのおもてなしがすばらしかった。なかでも、尺八の演奏とともに伝統衣装に身を包んだ女性たちによるお迎え、迫力のある太鼓や地元の人びとのあたたかいお見送りには胸を打たれた。大きな港にはない、地元のローカルなおもてなしの良さがあるということを実感できた。
3. 怪我していたのがハイキングにはつらかったが、和歌山県の人からたくさん話がいただけたのがとても嬉しかったです。
4. 降りたときに、日本の民族楽器の音が聞こえて、寄港への期待が高まった。また、神社のツアーはハードではあったが、人で溢れていない世界遺産というのはとても魅力的に思えた。お土産屋さんに行った時に、お店の方に、「船酔いはどの程度しますか」「どんな感じですか」といろいろ聞かれて、地元の人にとっても興味深いことなんだなあと感じ、一度は乗ってみてほしいと思った。
5. 新宮での体験は船の中で缶詰状態であった私にとってやっとまともに息ができた感じがして嬉しかった。また意見交換会ではクルーズ船の寄港地になることで得られる経済効果の大きさを実感できた。
6. 和歌山県には私史上初めて降り立った。ここではご当地のものを多く食することができ、また神社巡りで目と耳にやさしい時間を過ごすことができ大変有意義であった。意見交換会の際は、私個人的には最大限活用しきることができず、質問を考えるのに時間がかかったりほかの方と質問内容などが重複し足りてしまった。次このような機会があれば、今回の反省を活かしより良い時間へと自分の力で向上させていけるようにしたいと強く感じた。



7. ・神社ハイキングツアーはクルーズでなまった体にとっていい運動になるとともに初めて来た人には忘れられない思い出になったと思う。・意見交換会では全員が建設的な意見を交わすことができた。・新宮は日本人にとっても人気の寄港地先となるに違いない。
8. 歓迎行事、見送り行事、ともに力を入れていてよかった。とくに乗船時の行事は、小さなお祭りのようで、地域の人たちもたくさん訪れていて賑わっている印象だった。熊野古道は登る前は不安だったけれど、登る過程も貴重な経験で、頂上での景色も壮観で、とてもよかった。意見交換会では、和歌山県、新宮市のされている取り組みについて詳しく聞くことができた。。
9. いくつか訪れた寄港地の中で、最も印象に残っているのが新宮港での体験である。まず、他と比べて小さな港だからこそこできる下船時・乗船時のおもてなしがとても好印象だった。上でも述べた通り、やはり「人」との関わりが寄港地での満足度に影響を与えると思うので、その点において新宮港はとても良い取り組みをしていると思う。また、意見交換会では、いままで漠然と考えていたクルーズの経済効果等を実績として数字で知ることができ、クルーズに対して実際に行なわれている取り組み等も現場の方々から教えていただいたので、非常にリアリティがあり面白かった。学生の質問に対しても丁寧に答えてくださったので、実りある時間だったと感じている。
10. 新宮港は、今まで寄港したなかでもっとも小さな港であるように感じ、地方港の現状を実感させられた。しかし、ずっと海の上にいるクルーズ客にとって、下船して眼前に広がる緑の山々はもっともすばらしいおもてなしのように思う。地方港ならではの工夫もされていて、新宮港のおもてなし・お見送りはどこのものよりも感動し、また訪れたいと感じさせられた。
11. 早朝に朝日を見るため前日がほとんど徹夜だったこともあり、新宮での見送りを見ることができず大変残念だった。しかし意見交換会でのプレゼンは大変興味深く、職員さんのアンケートから得た乗船客の要望に素早く答えている姿が印象的だった。
12. 新宮港での乗船下船の対応はスムーズだった。神社ハイキングでは、個人ではなかなか訪れることが難しいエリアまでバスで移動でき、神社そのものも非常に見ごたえがあるもので、とても面白かった。意見交換会では、何を言えばよいのか多少戸惑った。寄港地の魅力として、見送りの太鼓の演奏は素晴らしかったと思う。
13. 新宮港は全く何があるのかが想像できず、ついたところも周囲にはないもないと



ころで、どうしたものかとおもった。しかしながら、下船後に案内された観光地は観光資源としてとてもいいところであり、まだまだあの町を訪れたいと思っている人は多いと思うので、町の中のインフラを整えて外国人であっても移動しやすいようにしてもらえればいいなと思った。

14. 新宮市は”陸の孤島”であるせいか観光智の地名度があまりない印象をもっていたが、実際に訪れてみると、世界遺産の神社をはじめとして、とても魅力的な観光地が多くあった。ターミナルの整備はされていないが、それを補ってあまりある、地元の方々による乗下船時のおもてなしが受けられて大変満足した。今回は、新宮出下船したため、大阪まで特急を利用し、”陸の孤島”を実感したが、東京、大阪の経由地になるというクルーズならではの強みがあるのは盲点であり、強く同感した。
15. 途中下船したため不参加
16. 今回、船の出入港時に歓迎や見送りがあったのは新宮港だけだったので、新宮の皆さまのおもてなしの気持ちをより感じる事ができた。日本の伝統を押し出したおもてなしで、海外からクルーズに参加されている方にはとても魅力的だろうと感じた。新宮でのツアーで、世界遺産にも登録されている歴史ある神社を訪れることができ、そのすばらしさを感じる事ができたのもとてもよかった。
17. 新宮港で印象に残ったのは、見送りの際の和太鼓の演奏であった。出港時には日本人外国人問わず甲板デッキに集まり、手を振っていたのを覚えている。各自治体が期待しているであろうクルーズ客と地域住民とのつながりをじかに感じた。入港から出港までいろいろな楽しみ方ができるのもクルーズの魅力の一つであると感じている。
18. 新宮という町には初めて訪れたのだが、こんなに魅力ある街があったのかととても感動した。こういった町の魅力を発見できるというのもクルーズの醍醐味の一つであると肌で実感した1日であった。岸壁においても物産や見送りイベントなどをなされていてまた来たくくなるような街だった。課題は山積しているようだが、是非とも今後もクルーズ誘致を続けて行ってほしいと感じた。
19. 途中下船したため不参加（みんなの写真がとても楽しそうで参加したかった。）
20. 新宮は聞いたこともなかったが熊野三山などは日本史で勉強したので楽しみであった。自然の石の階段のようにまばらな階段をたくさん登った後の景色は最高であった。そのあとのかき氷も美味しかったので新宮が一番満足度が高かった。
21. 新宮港ではお見送り隊やテントでの物品の販売など、新宮港を盛り上げるような試みがあって、他の港とは違う良さを感じた。



ハイキングツアーは新宮の自然をめいっぱい感じることができ、とても満足した。

22. 下船したときに税関などの施設がテントで用意されていて、驚いた。ツアーでは思っていた以上にハードなコースで大変だったが、その後に食べたかき氷も昼食も本当に美味しかった。寄港地から出港する際に初めてお見送りというものを見ることができた。それもあって今回の寄港地の中で、一番良いところだった。
23. 新宮港ではとてもきれいな民族衣装で出迎えてくれて、来ていたお姉さんもきれいで写真撮影で一番テンションが上がった港だった。帽子を持って降りなかった事を後悔しつつも、頑張ったご褒美に先生がおごってくださった「じゃばらかき氷」は暑かった体によく沁みてとても美味しかった。

#### (5) 東京港の感想（乗船下船時対応・寄港地の魅力）

1. 乗船下船時の対応は他の港においてよりも手際が良かったように感じられた。また、観光という面でも、時間がかなり限られていたものの、東京港の立地の良さから交通の便がよく、十分に観光地を回ることができた。
2. 新宮のような地元の人々によるおもてなしは見られなかったが、港の職員の方々がコンテナの整備や運搬、役割について詳細に説明してくださったのでとても勉強になった。バスで一つ一つの現場近くまで送ってくださるなど、親切な対応をしていただいた。寄港地での滞在時間が短かったため、目的地を全て回りきることはできなかったものの、それもクルーズの魅力のうちの一つであると感じた。
3. さすが東京の一言でした。ブラスバンドの出迎えなどは圧巻だったと思います。ただ新宮の時のように、出迎えと見送りのセレモニーがボランティアにするべきかという問題は東京に来て改めて、難しい課題だと感じました。広島市の方も仰っていましたが、年に50船以上客船が来るとなると、ボランティアの人たちもさすがに取り組むというのは難しいと感じました。
4. 東京港はやはり数時間で多くの観光地を回れることが魅力的だと思った。東京港のような大きな港はクルーズ船に対する見送りなどはしていないものだろうと思ったが、当日は雨にも関わらず、結果的にはプロの演奏によるお見送りがあったため、「さすが東京のクオリティは違うなあ」と、感嘆していた。お見送りなどそういったものに関しては、屋根のある強みが出ていたと思う。
5. 港から東京駅までシャトルバスがあつたり、交通手段が多いためにいきたい観光地にすぐに行くことができたりと滞在時間が短くても十分な満足感を得られる寄



港地であった。東京から新たに乗船する人が多かったが誘導がわかりやすくスムーズに下船・乗船できたことが良かった。

6. 出身がどちらかというに関東よりということもあり東京にはなじみがあったため観光という点に関しては特に言及すべきことはなかったが、東京の一つ前の寄港地和歌山が待つ雰囲気とはガラッと変わりどちらもよいものだと感じた。和歌山・東京ともに出港の際には音楽が奏でられ、そのようなおもてなしの心はやはり素敵だと改めて感じる事ができた。
7. ・審査は、厳格であるべきで、外見で判断することも仕方ないかもしれないが、丁寧な対応が求められる。
8. 東京駅への無料バスがあるのが便利でよかった。復路のバスもあればよいと思う。今回は時間が短かったのであまりたくさんのスポットは回れなかったけれど、東京は観光地が密集しているのでアクセスも良く、観光客にとっては観光しやすい都市だと思う。
9. やはり日本の首都ということもあって、税関での審査が相対的に厳しかったように感じた。寄港地の魅力としては、やはりその街の「大きさ」だと思う。ビルの量や高さ・人の多さ・電車の路線数などすべてにおいて「大きさ」を感じ、都心のパワーを感じた。また、大雨の中にも関わらず、出港時のセレモニー（ブラスバンドの演奏等）をしていた点は、おもてなしとして良かったと思う（近くにいた外国人観光客の方が感心していた）。
10. 東京港はクルーズ船もたくさん入っているのも、おもてなしやお見送りの類はいっさいなく、あっさりとお入港・出航が終わるんだろうと思っていたが、出航のときに管弦楽団が演奏し、マーチングを披露してくれたことに驚いた。もちろんその演奏もすばらしく、最後の出航になるのかと思うと寂しさもおぼえたが、それと同時にお見送りのレベルの維持をどのようにしているのかという点も疑問に思った。
11. さすが日本の首都だけあって、税関などはガードが厳しく、繁華街からのアクセスは少し悪いものの環境は整っていた。
12. 東京港での乗船下船の対応はスムーズだった。寄港日はあいにくの雨だったが、東京港からはお台場やレインボーブリッジがはっきりと見えた。港に入港する瞬間にデッキに上がったほうがきれいに景色が見えると思う。見送りのパレードも晴れの日にはもっと素晴らしく見えると思う。
13. 東京は降りる前から東京であった。東京に船で行く経験は一生することがないと思うが、船で行っても東京駅まで30分もかからなかったのも、陸空海どれを使っても便利な都市だと感じた。ただ、シャトルバスが行きだけで帰りは自力でどう



ぞという点が少しひどいように感じた。

14. 途中下船したため不参加
15. 途中下船したため不参加
16. 途中下船したため不参加
17. 東京港は完全に入国、検疫、税関、その後の移動手手段まで用意されていて、ほかの港の対応との違いをまざまざと見せつけられたように感じた。寄港地の魅力としては何とんでも日本の首都ということでいろいろな楽しみ方ができると思うが、クルーズの寄港時間では東京の魅力をあまり感じる事ができないのではないかと懸念が残った。
18. 東京港は東京駅までの無料シャトルバスが整備されているというところが魅力的であった。東京はいうまでもなく日本の首都であり、特に外国人にとっては行く場所に困らないとおもう。逆に東京のあまり有名でないスポットを巡るツアーなどがあれば面白いのかなと考える。また主要観光地までの所要時間やアクセスなどが書かれたパンフレットなどがあれば、クルーズ客にとってありがたいと思った。
19. 途中下船したため不参加
20. 東京の港はバスがちゃんと出ているので助かった。神戸のように電車がないと外国人は大変だなと思う。東京は今更、観光することもないのでブラブラして終わった。もう少し年をとれば友達がいと一緒に食事ができたりするのかなと思う。
21. 東京港はやはり東京というだけあって、港もでかく、自由時間には東京の名所を時間いっぱい観光することに重きを置いたので、いい時間を得ることができた。私は東京で下船したのだが、東京港はターミナルもしっかりしていて、良かった。
22. 連日の疲れが溜まっていたため、東京では下船せずに船内で過ごした。ゆっくり船内を散策したり、ジムで体を動かしたりして過ごした。サムサラスパにも行き、人生初のエステマッサージを経験した。人が少ない船内で疲れを癒やすことができた。
23. 途中下船したため不参加

## 第4部 <船上講義：スマートクルーズアカデミー>

### (1) 学生提言「姫路港の活性化策について」の感想(各班の発表を聞いての感想)

1. 各班とも十分に準備を重ねた上で内容の濃いプレゼンを行っており、質疑応答も活発に行われていたため大変意義のある提言会になったと思う。特に兵庫県立大学の班の発表は大胆な内容だったため興味深かった。
2. 同じ大学の同じゼミ内でも、各班で個性があった。今あるものを最大限活かすというアイデア、今あるものと何か新しいものを組み合わせるといったアイデア、そして全く新しいものを生み出すというアイデアがあり、それぞれに魅力を感じた。気付かされたことは、港湾関係や観光面だけでなく、自治体の側の立場にも立って考えるということだ。寄港地で楽しい時間を過ごしてもらいつつ、その地域にも利益になるようなアイデアが求められていると感じた。
3. 多種多様な提言があっけきいて面白かった。姫路の観光なのに姫路城を回らないという兵庫県立大の発表は斬新で特に印象に残っています。また道の駅といったクルーズとは一見関係なさそうなものも、発表に取り入れていたり、真新しいものが多くとても参考になりました。姫路市の方も言っていたように、学生ならではの斬新なアイデアをこれからも創り出すために、様々な分野を関連付けて政策を考えることができるようになりたいと改めて感じました。
4. 各班の特色がはっきり出ていて面白かった。質問タイムなどでも大学ごとに違った視点から意見が出ているなど感じた。自分のプレゼンやコメントに関しては、周囲の人、特に先輩に比べて言葉遣いや話し方のなっていない部分が多かったので、これから努力していきたいと思った。
5. いかに今までにない満足感の得られるプランを構築するかという視点で姫路を見ているところが面白かった。商店街一つをとってみてもそれをただ買い物場として捉えるのではなく、地域の人との交流の場であったり学生と観光客の繋がりを作る場と捉えてみたりととても興味深かった。
6. 自班のプレゼンに関しては(私自身といたほうが適切であろう)準備不足が明らかであったと思う。他班に関しては、前情報を何も得ていなかった且つ港湾部の活性化をテーマとした私たちと違い、ツアー計画の班がその他すべてであったため、新鮮な気持ちで見聞きすることができた。阪大の残り2班そして兵庫県立大のプレゼン案はどれもコンセプトや裏打ちがしっかり考えられており、自分自身



も発表用のパワーポイント作成者・プレゼン担当者としてさらなる向上をしたいと強く思った。

7. ・各班それぞれ独創的なアイデアを考えていたので素晴らしかった。・中には、絶対に採用して実施されるであろうと思われるプランもあり、学生の思考は大人にはない柔軟でユニークさを感じられた。・今回の各班のプレゼンを聞いて自分なりに考えたのが、寄港地先でしかできないユニークな思い出を作れば良いということだ。・寄港地での印象を残そうと初めて訪問した人に、もう一度来たいという気持ちが起こると思う。

8. 各班、角度や観点もそれぞれ違って、面白い提案とプレゼンテーションだった。私の中では忍者の提案が印象的だ。忍者という誰にでもわかる簡単なモチーフから、集客のための様々なサービスを展開できるので面白いと思った。



9. どの班の発表も良かったが、やはり自らの主張や提案にきちんと「理由付け」がされているか否かが内容の完成度につながってくると感じた。プレゼンテーションを通じて聴衆に何かを伝えたいときは、当然「なぜその主張・提案が良いのか」をきちんと伝えなければ説得的にならない。各班の発表を聞いてそれらを比較することで、その点を改めて感じた。内容については、それぞれの班がそれぞれの視点からクルーズを通じた地域活性化を考えていて、とても興味深かった。特に、大阪大学の他の班が考えていた「地域の学生や人々との交流」という提案が印象に残っている。というのも、自分自身が今回のクルーズを通して「人」の重要性をととても感じたからだ。だから、クルーズ活性化を考えるうえで、その地域全体を巻き込んだ政策が必要であり、そのような取り組みがまた新たなクルーズ活性化を生むと考えた。

10. どの班も説得力があって、おもしろそうだと感じた。まだ中身の詰め切れていない班もあったと思うので、ぜひ完成形を見てみたいと思った。また、意見を言ったり、質問したりする場面では、ほかの人がどういう視点で発表を聞き、その内容を捉えているのかが参考になったので、今後のゼミ活動で活かしていきたいと思った。

11. どの班も内容自体の斬新さに驚いたところは少なかったが、その発表の仕方・プレゼンの流れ・説得力のある話し方などに刺激を受けた。

12. 各班の発表を聞いて、着目する点や重視する点、アイデアの構成といったそれぞれ各班の特色が表れていて、学ぶことが非常に多かった。提言としては、学生たちの中で自ら得点付けや評価をしてみても面白いのかなと思った。

13. 各班様々な提言をしていたため、聞いていて面白かった。忍者を出したり、学生

との交流を前面に出したりするというあまり誰も考えつかないような方法で姫路を活性化しようとしておりよかった。私たちの班は道の駅をつくろうというすこしどこかで聞いたことのある単語を使ったのだが、それほど突っ込まれることなく終わり安心した。

14. 各班ともとても面白い提案をしており、とても興味深かった。今回、簡単ではあるものの、実際の政策立案を行ってみて、確かに学生は、学生ならではの面白い提案を行うことができるが、自治体の方のコメントにもあったように、行政はいかに地域に利益をもたらすかに注目しており、その点に両者の乖離があると感じた。実際の政策となるには、ただ面白いだけでなく、そのような現場との乖離をいかに小さくできるかが重要であると感じた。

15. 短期間で完成させたプレゼンであったが、各班それぞれ全く違う方向性で内容も非常に興味深く、とても良い企画であったと思う。プレゼンの発表だけでなく、その後の質疑応答があったことで、このプレゼンの提出前最後の仕上げにも役立てることができるいい意見をたくさんいただくことができた。また、このプレゼンがあったことで、その後、他大学の方と食事の席が一緒になったとき、プレゼンの内容や、この企画に関する話題で話が盛り上がったので、コミュニケーションのきっかけともなるよい企画であったと思う。



16. 同じ姫路市をテーマにしているのに、各チームで異なった案が出ており、様々な観光プランを聞くことができ面白かった。それぞれの提案に、それぞれの良さがあったと思う。
17. 各班ともコンセプトが全く違っており、聞いていて楽しい時間だった。各班の違ったプランをまとめて聞くことで、私自身思いもつかなかった姫路の楽しみ方があるのではないかという気がして、これから姫路のことをよく知っていこうと思う。非常に有意義な時間だった。
18. 各班の発表は時間がないなりにそれなりに斬新なもので非常に聞いていて面白かった。例えば姫路弾丸ツアーのようなあえて姫路城に行かないという発想は私たちの班では考えられなかったし、姫路城の隠し通路から連想された忍者ツアーもそんな伝説があったんだと気づかされるものであった。さらに大学間で多少なりともそれぞれのゼミの雰囲気味わえたことも良かった点だと思う。
19. 各班、全く内容がかぶっておらず非常に面白かった。特にある班のビンゴゲームは、自分が参加したいと思うほど、興味を引かれた。また兵庫県立大のチームの発表は、赤井ゼミ3班とは発想が全く逆で、発表を聞きながらワクワクしていた。

20. 事前知識がなくてとても申し訳なかったと思う。各班個性はあったが、結果どれも同じにも見えた。とんがったことをすればいいのか王道を責めるのかとても難しいプレゼンをしていたなというのが率直な感想である。
21. 姫路のプランニングや姫路の活性化について、それぞれのプレゼンを聞いて、それぞれの発表のポイント、重きを置いた点などがちゃんと提示された条件に当てはまっているか、自分たち中心の発表になってしまっているのでは無いかということ気を付けていこうと思えた。
22. 大阪大学の学生の発表を聞いて、また違ったアプローチの仕方があることを知れた。今回は時間がなくて大学ごとに分かれての発表だったが、今度は大学混合チームでのアカデミーもしてみたい。
23. 解決したい課題や対象地の特徴などを細かく調べていて、根拠がしっかりしていた。さらに、数字の資料を用いて論拠を確立していたのでとても分かりやすく、ニーズもしっかり捉えていた。また、姫路港を訪れるクルーズ船の種類や乗船している外国人層の割合までよく調べ上げられていて、努力の跡がみられた。

## (2) クルーズ活性化会議プレゼン・パネル討論の感想

1. 実際にクルーズが寄港する土地の職員の方々と価値のある意見交換をすることができた。クルーズについて今まで以上に理解を深め、観光にどう生かしていけるか、ということを考える契機に改めてなったと思う。
2. 自治体の方々のプレゼンを聞いて、地域の多様性を感じた。それぞれの自治体によって推しとなるものは様々であるが、その土地の伝統的な物産やお祭り、世界遺産や国宝など、歴史のあるものというところでは共通していた。実際にクルーズ船で釜山・博多・新宮・東京の港湾を訪問した際、お出迎えやお見送り一つをとってもその地域で様々であって面白かった。一概に良い型を決めず、地元らしさが見られた。
3. 色々な大学や、県庁の方からお話を聞くことができ、貴重な機会だったと思います。特にこれからのクルーズ産業全体の未来はとても明るいように感じました。ただ、全国的にこれからの受け入れという問題は考えていかなければならないと感じました。パネルディスカッションでは各自治体の物流と人流のすみ分けなど解決しなければならない問題が山積していると感じました。
4. 姫路港、敦賀港、広島港、自治体が違えば課題や利点も全く違うものかと思っていたが、共通点や比較できる点は想像以上に多かった。だからこそ、自治体同士の協力、競争など関係性がとても大切になってくるのが想像された。また、タ



ーゲットを特定したマーケティングを意識すべきだと思った。

5. クルーズについての知識がほとんどなかったので勉強になった。海外においてはもっとクルーズが身近な存在であり、今後の成長が大いに期待できる市場であること、対して日本においてクルーズが余暇の過ごし方として定着しない理由に日本人の働き方があることなど興味深い内容だった。
6. クルーズ船招致に現在取り組んでいる地方自治体・県庁の方々のお話を直接聞くことのできる機会は大変貴重であり、また他の大学で教鞭を執られている先生方の意見を聞くこともできて非常にためになる時間であった。
7. ・各自治体の抱えている問題・取り組みを実際に携わっている人から直接聞いたことはいい経験だった。・普段は絶対に教えてくれなさそうなこともプレゼンでは仕入れることもでき、大きな経験となった。・学生からの鋭い質問に的確に返答してくださり、非常に濃い討論会となった。
8. それぞれにクルーズを体験してこそわかるクルーズの魅力や特徴、問題点について感じていた。私自身も今回の経験を通して、他の意見もたくさん聞くことができ、クルーズの活性化には何が必要かを深く考えることができた。
9. それぞれの先生方・自治体の方々が、それぞれの立場・視点でクルーズ活性化について考えていたので、多角的な視点でクルーズ活性化について考えることができた点で面白かった。特に、自治体の方々からそれぞれの実情に応じた現場の声を聞いたことは非常に貴重であったと思う。内容に関して、やはりクルーズの魅力・それを誘致する目的や内容等は実際にクルーズを経験してみないとわからないところが多いと思った。だから、船会社との連携をもう少し模索して、住民の体験乗船・日本近海のクルーズ旅行を増やすことなどの取り組みが必要だと感じた。
10. 広島県、福井県の自治体の方の話は、各地方自治体の抱えている課題ということ考えさせられることも多かった。またそれに対して、経済学の専門家である先生方の意見を聞けるのは非常に興味深かった。
11. 今までクルーズに乗ったこともなければ、そのイメージとしても上流階級の娯楽、くらいにしか思っていなかったため、クルーズ業界について深く考えたことなどなかった。しかし赤井先生のデータを多く用いたプレゼンや、実際県庁などで働いておられる職員の方々のお話を聞いていると、この業界の今後やクルーズ誘致に向けた政策などに興味を湧いた。
12. クルーズ活性化会議を通してクルーズ全体に関する興味が沸いた。パネルディスカッションでは、先生方の貴重な意見を聞くことができる貴重な機会だったので、考え方の勉強ができた。
13. クルーズ船の誘致に関して各港の取り組み課題等を聞くことができた。また、先生からはクルーズの現況に関して聞くことができ、とても勉強になった。広島に

クルーズが行きたがらないということをきき、姫路にも行きたがらないのではないかと感じた。姫路港は神戸港が埋まっているときに使われているのではないだろうか。

14. これまでは近年のクルーズ船のブームをはじめたことだと認識していたが、過去にも何度かブームがあったと知り、現在、このままクルーズ産業がどこまでも右肩上がりに成長し続け、それぞれの自治体がブームに乗り、クルーズ誘致に投資をしている現状の中で、過去のブームが一度は下火にはいった事実と、その理由を認知することは重要ではないかと感じた。

15. 途中下船したため不参加

16. 広島港と敦賀港の状況についてお話を伺うことができ、クルーズ誘致を進めている港同士でも、取り組みや、抱える課題は様々であるということが分かった。また、それぞれの先生方から、クルーズに関するご意見を伺うことができ、これからクルーズ振興を進めて、コアなファンを増やすうえで重要になるような視点からお話しただけで面白かった。

17. クルーズ活性化会議では、どの港も抱える課題は似通っているなど感じた。例えば地方港における物流施設と人流施設のすみわけや、各中心市街地への交通手段などに苦慮している印象があった。したがってクルーズ活性化について都道府県をメンバーとして協議会を作り、よい対策などを共有することができればよい策が生まれるのではないかと感じている。

18. 今年は去年と比べて自治体の人が少なかったため、一つの港に対して様々なことが聞けたと思う。また参加された港もある程度、港として名高い広島と、これからの発展が望まれる敦賀という好対照であった点が面白かった。どちらの港にも言えたことだが、何もクルーズ誘致にこだわらずとも観光業を盛り上げる手法は色々あるわけで、その中でもやはりクルーズだという主張が大事になってくるのかなと直感的に感じた。



19. 途中下船したため不参加

20. 自治体の方々は思っている以上に多くのしがらみの中仕事をしているのだなと感じた。もっと柔軟な対応ができれば日本の港も活性化するのもかもしれないが無理なんだろうと思う。

21. 赤井先生のプレゼンによって、現状のクルーズ事情、改善しなければいけない点などを充分説明してもらった上で、各県庁の職員さんの現状についてのプレゼンを聞く機会を設けてもらったことを嬉しく思い、とても有意義な時間を過ごせたと思う。

22. そもそもクルーズや寄港地についての知識がほとんどないままに参加してしまったことを後悔している。初めて聞くような単語が多く、もっと勉強してから乗るべきだったと反省している。プレゼンで企画・提案をする際にどのような点に気を付けて決めていくべきかというのまで知ることができ、学ぶべき点がたくさん見つかった討論会だったと思う。
23. どこの自治体さんも考えていることは同じで、地域を活性化させようという姿勢が見られた。だがそれと同時に、政策が同質化してしまい、自治体同士で苦しい潰し合いをしてしまっている印象を受けた。協力し合えばできることは何倍にも増えていくと思う。また、このようなことについて真剣に考えることが今までなかったのどのような視点で切り込んでいけば良いか分からず全くの手探りだったが、阪大生や先生方の意見を参考に自分なりに考えてみることで楽しくなった。

**(3) スマートクルーズアカデミー内容全般について(学生提言大会、自治体との交流会、フォーマルナイト、夜の交流会など)についての感想と今後の要望**

1. 赤井ゼミのモットーとして「よく学び、よく遊ぶ」というものがあるが、今回の企画はまさにその精神を体現したものであったと思う。観光資源としてのクルーズについて考察を深められただけでなく、クルージングという日常ではなかなか経験できない体験ができたという意味でも大変有意義であった。
2. 学生提言大会について、今回は姫路港をテーマにしたプレゼン内容であり、その後には姫路港でのプレゼン本番を控えていたため、本番のための意見交換とブラッシュアップのための良い機会になったのではないかと考える。一方で、参加しておられた自治体の港湾についても知り、意見交換や提案をする場があればさらに良かったのではないかと思った。
3. 全般的にとっても満足しています。来年までには、もっと大きな港の関係者の方などの話も聞いてみて日本全体の解決策を考えていければと思います。また、船内でのフォーマルナイトなどはこれから共に論文を書いていく仲間と一緒に非日常的な空間を共有でき仲がさらに良くなったと感じています。
4. 自治体の人や先生方と一緒に船に乗り、クルーズをしながらクルーズの勉強をしたり、意見を交換し合うなど、アクティブラーニングの骨頂だと感じた。姫路プレゼンを通して、他大学の人と意見を交換しあうことによって、親しくなれるの



もよいと思った。

5. 自治体の方がみんなで行う企画だけではなく、食事やその他の船内イベントにも一緒に参加して下さったため気軽に色々なお話を伺えたことがよかった。またフォーマルナイトやホワイトパーティーなど1人では参加しにくい企画にみんなで参加できよかったと感じた。
6. 上にあるいくつかの質問に対する回答とも重複するが、学生提言大会にしても自治体の関係者の方々とのお話にしてもフォーマルナイトにしても、日常の大学生活を送ってはいなかなか経験することのない機会でありこのようなタイミングでなければ聞くことのできないようなお話をたくさん聞かせてもらうことができた。それは大変良い時間であったと改めて考えている。
7. ・学生の思っていることと自治体の思っていることの双方の差異を知ることができ、両者にとっていい刺激になったと思った。・普段関わることのないと思われる自治体の職員の人たちと1週間弱共に過ごすことで様々な社会の厳しさや、働いた時の苦労話、普段の仕事のやりがい等を話してもらえるなど良い経験だった。・フォーマルナイトは初めての経験だった。最初はなぜやるのかが分からなかったが、船長が来るからだったんだと後で気づいた。いろいろなマナーを学べた。
8. すべての企画がとても貴重な経験だった。ほかの大学のゼミ生や自治体の方々と関わったのは今回のクルーズがあったからであり、つながりができてよかった。このつながりを今後も大切にしていきたいと思った。
9. 学生提言大会・自治体関係者との交流が良かったと感じている。特に、実際にクルーズ誘致や活性化に携わっている自治体の方々と7泊8日のクルーズを体験できたのは有意義なものだった。自治体の方々はこのクルーズ中に、船内や寄港地で体験した感想を自らが取り組んでいる港と比較して教えてくれた。そこには、私が今まで知らなかったような現場の声や視点がたくさん盛り込まれていて、自治体の方々の言葉はクルーズ活性化を真剣に考えるきっかけをくれた。
10. 普段はそんなに話すことができないような自治体の方や、先生方と話す機会も多くあり、学問的な話以外にも雑談や経験を聞くことができたのはとてもよかった。特定の人とだけ仲が深まる8日間ではなく、全員のことを知り、全員とコミュニケーションをとることができて、今後ゼミで活動していくうえでとても貴重な8日間だったと思う。
11. 普段の生活では話す機会もなかったような自治体の方たちと、スマートクルーズ



アカデミー以外の例えばフォーマルナイトなどの場で話すことによって交流を深めることができ、クルーズ以外の話もできたので大変貴重な体験だった。

12. 全体的に、遊び、体験、勉強すべてがバランスよく組み込まれていて、学びの多い一週間だったと思う。やはりクルーズの醍醐味として、普段できないこと、非日常性を体験したいので、これからもその要素を盛り込んでほしい。可能ならば、同じ船が二年連続で続かないようにしてほしい。
13. 自治体の方が前回よりは少なかったが、逆に接しやすくて良かった。クルーズに乗れるくらいの休みを多くの人が取れる環境をつくるように努力するべきだと思う。
14. 自治体の方と食事をご一緒し、クルーズのこのみならず、実務のことなど、とても興味深い話を聞かせていただき、意見交換したり、政策提言をする上で大事なことをご示唆いただけるなど、とても有意義な時間を過ごすことができた。また普段はあまり表にでないクルーズの悪い点なども知ることができ、知見を広げることができた。
15. プレゼンでは学生の視点だけではなく、自治体の方々から意見をいただくことで、自治体の視点を意識するということを学ぶ良い機会であった。また、プレゼンの際だけではなく、クルーズの中で、自治体の方々との交流ができ、さまざまなお話を伺うことができた。このように打ち解けた場での交流はめったにできないので、とてもよい経験だった。
16. 日本人はあまりクルーズにはなじみがないため、クルーズの文化に触れることができるこのような機会を学生の間で得ることができるのはとても意義があると感じる。船上でも地上でも、他では得られない学びや出会い、気づきを得られるため、今後も継続され広まってほしいと思う。
17. 今回は赤井ゼミ以外の参加ゼミの人数が少なく、そのため、ゼミ以外の人と積極的に交流することができたと感じている。また今回自治体の方の人数は少なかったが、我々学生と年の近い方が乗船しており、より近い形でいろいろな話を聞くことができたため、自治体関係者に若い方がいるほうが双方にとって有意義な時間になるのではないかと感じている。
18. 今年は自治体の方とご一緒させていただくことが多く、去年であればあまり聞けなかった行政の内実みたいな話も深堀できて、とても有意義な時間を過ごせたと思う。普段はこうしてカジュアルには関われないような自治体の方と話せる機会というのはとても刺激的であり、我々のような政策提言を行うゼミにとってはとても貴重な機会であると感じた。



19. まず、一緒に乗船したみなさんに感謝を伝えたい。正式なフォーマルナイトに参加することの出来ない、私達の要望で2回もフォーマルナイトをしてくださり、本当に嬉しかった。できれば、去年は開催されていた浴衣を着るイベントにも参加したかったので、来年はあるといいなと思う。
20. どうせなら小さめの船を乗客全て大学生にして今風のパーティーをしたらいいのと思う。年配の方との交流は、楽ししたが個人的にまた乗りたいとは全く思わない。若者と大人の楽しみ方が違うと思う。
21. 全体を踏まえて、この企画によってよりクルーズを楽しむことができたと思う。フォーマルパーティは全体の雰囲気など良くする機会だったと思うし、それぞれの企画によって、他の人との交流にもつながった。
22. 学生の提言大会が前半にあったことで、後半は他大学の学生と親交を深めたり、船内での生活を充実させることができたので、よかった。自治体の方全員とお話をする機会を作れなかったのが、今後参加する際はもっと積極的にいきたい。初めてのフォーマルウェアでの食事だったので緊張したがいい思い出になった。今後も学生主体のアカデミーは前半にしてほしいです。
23. 最初から最後まで本当に盛りだくさんで飽きることがなかった。何もかもが初めての体験で、頭も体も動かすとやはり充実感がいつもの倍以上あって、普段の生活を見直そうと思った。またこれは全然関係ないのだが、私はいわゆるスマホ中毒者であると自覚している。よって電波の繋がらない船の上の生活はそれなりにストレスの溜まるものであったが、スマホが使えない分必然的に人と話す機会が多くなって、その時いかに今まで自分が口下手だったのかを痛感することができた。

## 第5部 <地域活性化・クルーズ振興>

### (1) 地域活性化のためのクルーズ客船誘致と港湾の役割(港湾関係者の発表や船内での関係者との議論を踏まえて)についての感想(国・自治体政策のあり方など)

1. クルーズ船の一回の港への停泊で数百人、数千人の観光客を一挙に呼び込めることから、その誘致は大きな経済効果をもたらさう。そこで、港湾においては、クルーズ客をターゲットにした企画などをより充実させていくことが施策の一つとして有効であるのではないかと感じた。
2. 実際に港を訪れて、最も印象的であったのはお迎えとお見送りの場面である。特にお見送りの場面では多くの乗船客がデッキに出向き、それぞれの港のお見送りを受けていた。港によって規模は違うものの、心のこもった地元の方々の歓迎は心に残っている。一方で、歓迎に訪れていた一般の方(特に子供達)も同じく、大きな船舶を見ることはもちろん、地元の物産を多くの人に知ってもらい買ってもらうためには有益である。ターミナル付近ではたくさんの乗船客で溢れるため、物産展の規模をさらに大きくしても良いのではないかと感じた。
3. 港湾活性化のためにはまず地域の関係者がクルーズ船に興味を持つこと・経済的効果を理解することから始めなければならないと思いました。経済効果は高いので、その点を意見交換等で理解を得ることができれば、ますます地域コミュニティとしてクルーズ活性化につながると思いました。
4. クルーズ客船の誘致に関しては、ターゲットを絞ったマーケティングと、官民の協力のやり方を長期的に考えていくことがとても難しいが、大事になってくると感じられた。地元の人たちをどううまく、クルーズ活性化に誘導していくのかを考えて、住民に理解が得られるように努力しなければならないと思った。
5. 確かにクルーズ船の寄港地になり、乗船客が訪れることは経済面でも活気の面でも地域の活性化に大いに貢献すると分かった。しかし、今までのような宿泊込みで訪れていた観光客への対応から一日数時間のみ滞在する乗客への対応へシフトする必要があることや、また寄港する船によって客層が変わるためにそれぞれのニーズに対応する必要があることなど自治体のみでは抱えきれない問題であると感じた。そもそもクルーズという文化自体が日本に馴染みのないものであるため、



もっとクルーズ船の誘致に力をいれ日本でもクルーズ産業を根付かせようとするのなら、国の政策は必要不可欠であると感じた。

6. 釜山や東京湾など港自体が発展しており人の移動量も多い地区と、新宮などといったこれからクルーズ船進行を進めていくことを予定している港とでは、ある程度の差はあったかと思う。都市区域の港湾では施設が整えられている魅力があり、その一方で、今まさに発展中の港湾では施設設備は途上なものの、地域の人々が集い出迎え送り出してくれるという暖かみがあった。これから誘致数を増やしていくとおっしゃっていた新宮港や敦賀港の方々は、場所は違えど物流との棲み分けなど抱えている問題に共通する点は多いという印象を受けたので、そうした観点から見れば、各地域内での発展尽力および港湾局同士で連携をとり、日本国内全体でクルーズ事業発展に努める事が大事だと感じました。
7. ・従来の港湾はただ広く何もないというイメージだったが、クルーズ船誘致のための整備は、再開発事業としては魅力的であると思えた。・海に面しているがいまち経済力が弱い自治体はすぐにでも客船誘致に向けた取り組みを考えるべきで、国ももっと大々的に支援をアピールすればいいと思う。
8. 寄港地の方々の話を直接聞き、クルーズの集客力の大きさを改めて感じた。ラグジュアリー船だけでなくカジュアル船も、乗船人数が多く大きな経済効果があるということで、今後は年齢層、階級にとらわれない大きな市場として地域活性化に大きな役割を果たすだろう。今回の新宮のような、地域全体を上げたクルーズ船歓迎への取り組みが大切だと思う。
9. まず、国や自治体が、地域活性化のためのクルーズ客船誘致に向けた取り組みを行うこと自体は必要不可欠だ。やはり新宮市の方に伺ったように、（きちんとクルーズ船を誘致できれば）地域経済へのインパクトがとても大きいからだ。ただ、どれだけ行政が頑張っても、国民や市民がクルーズに無頓着ならば成功は得られないと思う。というのも、寄港地での様々な体験を通して「人」の重要性をとっても感じたからだ。だから、まずは国民・市民がクルーズを知り、興味を盛り上げることが不可欠だと思う。そのような、クルーズについて国民・市民に働きかける政策（体験乗船やボランティア、気軽にクルーズを楽しめるチャンスを作るなど）が重要だと感じた。
10. クルーズの経済効果がそんなに高いものだと思っていなかったなので、今後は重要な経済活動の一つとして着目していきたいと思った。また、新宮港の事例でもあるように、大都市だけでなく、陸の孤島と呼ばれるような地方都市にもクルーズ船を誘致するポテンシャルがあるというのは、クルーズ船の1番大きな魅力なのではないかと思う。
11. クルーズ船の帰港時間帯は大抵夜を避けた朝から夕方。その為、クルーズとはいえたかが1台昼間に帰港したくらいで得られる経済効果は知れたものだと思って

いた。しかしクルーズ船がかつて帰港した際に取ったアンケート結果から、明らかになった経済効果を数字で見たときは本当に驚かされた。この数が本当なら（まさか嘘ではないと思うが、）他の、港を持つ自治体はもっと積極的にクルーズ誘致に向けて取り組んでいくべきだと思った。社会的価値がある業界であると感じた。

12. クルーズ客船誘致として、港にはその港の独自性が必要になると思う。その独自性はさらに、観光地としての独自性（そこにしかない観光地）と港湾機能としての独自性（受け入れ設備や待遇の良さ）に分けられると思う。また、国ができること、港湾を管轄する自治体ができることのバランスも大事だと思う。
13. 地域の特色をいかに多く港に反映させるかどうかが重要ではないだろうか。釜山についてときは釜山を感じたし、博多でも博多に来たということを感じた。一方で新宮は、下船後はとてもよかったが、それまでは、よくわからない田舎に来たという感覚が大きかった。おそらく港の周囲にもう少し自然があるといいのかもしれない。
14. 去年はクルーズ誘致のよい点にしか目がいってなかったが、今年は去年とは見方を変えたり、自治体の方と深くお話をするなかで、他の地域活性化策がある中で、巨額のお金と人員を割いてまでクルーズ船の誘致を行うのがよいかなど、一歩さがってクルーズ客船誘致、地域活性化策について考えることができた。
15. 日本では、全国的に見てもまだクルーズ船誘致という観点からの港湾整備が盛んに行われているとは言えない。しかし、クルーズ船がもたらす経済効果や、地方活性化の効果に注目が集まっているのは確かであり、今後、クルーズ船の誘致やそれに向けての港湾整備は国と自治体が一体となって進めていくべき課題であると強く感じた。その中でも特に重要なのは、地元住民の理解と協力であると思う。クルーズ船の効果で地元を活性化するという意気込みは、クルーズ船への正しい理解から生じると思うので、まずは1人でも多くの人に知ってもらうための広報活動などが重要なのではないか。
16. 意見交換をさせていただき、クルーズ船の誘致という目的は同じでも、課題解決に向けた取組やその港湾が抱える課題が様々で面白かった。ただし、クルーズ船による経済効果が大きいとしても、クルーズブームが過ぎたときや、クルーズ船が来ない時期のことを考えると、クルーズ船に頼りすぎない観光政策も行う必要があると考えた。
17. クルーズが地域活性化において大きなポテンシャルを秘めていることは今回の経験で大いに知ることができた。しかしながら、高齢のクルーズ客が多いのがこれからの課題になるであろう。私たちが寄港地にいる間も、船で休んでおられる方が大勢いた。特に高齢者でこのような乗客が多かった印象である。そのため今の主要層である高齢者だけでなく、若い元気な層も呼び込むことで、さらに寄港地

の活性化につながると考える。

18. 今回新宮を訪れて強く思ったことは、クルーズ産業があることによって新宮のような普段スポットが当てられない観光地を掘り出せるという点がとても大きなクルーズの魅力であるということだ。一方で全ての港湾がクルーズのような大きな客船を誘致できる力があるとは限らないので、自治体間の協力で大きな港が誘致し、その乗客を小規模な都市へ流していくルートが作られれば望ましいのかなと思う。
19. 関係者との議論を通じ、多くの自治体が地域活性化の手段としてクルーズを考えているのだなということを実感した。私はクルーズに注目が集まっているということを知ってはいたが、実際には感じていなかった。ぜひ、地元の特産や強みを生かして、各自治体が特色のある港湾作りに努めてもらいたい。
20. このままではすぐに飽きられてしまうと思う。団塊世代の方々がなくなってターゲットもすくなくなっていく中でどのような人たちを日本で狙っていくのだろうか疑問である。また自治体も本気でビジネスとして試しているなど思ったのは新宮だけであった。
21. 各県庁によって、クルーズ船の誘致の願望や体制が違ったのはいい点だとは思ったが、クルーズ船を誘致するにはその港周辺の地域の人々や民間企業など連携して行う方がよりクルーズの乗船客にとって良い思い出を提供できるのだなと思った。
22. まずどこの寄港地であってもインフラの整備は早急に行うべきであると感じた。特に印象的だった新宮ではインフラ整備だけでなく、寄港地の案内の提供方法すら決まっていなかった。見送り隊の人材確保も課題となっていると聞いた。私自身は最後に見送りがあったから、良いところであったと感じた。自治体として補助や支援を充実させてほしいと思う。
23. やはり今のクルーズ観光での大きなターゲットは中高年層であり、そこに合わせた戦略が必要になってくる。地域活性化の面でいえば若者の里帰りや流出を抑えることも必要だが、クルーズ船内のイベントや寄港地でのおもてなし、観光スポットや案内するツアーなどはやはり中高年層の客に重きを置くしかない。また、国は将来の日本に投資をすることでできる限りの補助金を地方自治体に付与すべきだと思う。



## (2) クルーズの社会的意義とクルーズ振興の在り方(ニーズの掘り起こしむけ

## ての若い世代からの視点)

1. 今回私が乗船したクルーズ船の乗客は比較的年齢層が高いように感じられた。個人的には、実際にクルーズに乗ったことのない若い世代からすれば、クルーズ旅行は「敷居が高そう」といったイメージが先行しているように思われる。そこで、今後はクルーズに関する広報活動をさらに強化し、若い世代への認知度をより一層高めていくことが施策の一つとして考えられる。
2. クルーズは1週間程度かそれ以上の日程となっているため、働く世代が旅行の手段として考慮に入れるのは難しく、定年されたご高齢の方を頻りに船内で見かけた。しかし、クルーズ振興におけるこれからのクルーズの一番のターゲットは時間も体力もある学生ではないかと思う。しかし学生には金銭的制約があるため、学生限定のツアー、セール、コースなどを設け、大学の生協などと連携して行えば良いのではないかと感じた。また、学生に対するクルーズの認知度が上がれば、その先も継続して利用する機会にもつながる。
3. クルーズ振興に当たっては、まだまだクルーズのニーズが顕在化されていないという現状があると考えています。今回このような機会をいただくことが無ければ、僕自身も乗ることは無かったと思います。しかし、クルーズ船の認知自体は話題にもなってきたっており、格段に昔と比べて日本に浸透しているのではないかと思います。となると、興味を持ってもらい、比較検討の際にクルーズが候補にあがるようにすることが必要だと思っています。ここに関しては、①クルーズを一度体験してもらうことや、②サラリーマンが長期間の休みを取ることができるようにすること、③カジュアル船をもっと普及していくことが重要だと考えています。クルーズは高価で高いイメージだからこそ、これからの”効率の良い非日常の旅”ができるなどの魅力をさらにメディア等で発信していく必要があると感じました。クルーズ振興に向けての具体的な対象としては大学生大学院生にするべきだと思います。お主な理由として以下3つ考えています。1つ目は総じて時間を確保することが現状容易であるということ。2つ目は将来的なユーザーの確保につながるということ。3つ目はグローバルな視点を身に着けることができるという点です。
4. 常にスマートフォンを手放さず、どこに行ってもその場にはいない人と連絡を取っている現代人にとって、特に若者にとって、長時間電波と遮断され時間を楽しむクルーズというのは有意義だと思った。「電波が通じない」「時間がゆっくり流れる」などをもっと押し出していてもいいのではないかと思った。



5. クルーズ産業が欧米で盛んである以上日本は寄港地としてとても魅力的であると思う。そして寄港による経済効果も示されているため、クルーズ船の積極的な誘致は地域振興に貢献すると思う。しかし、実際に寄港地でクルーズ船を迎える人でクルーズ船を身近に感じている人は少ないと思われるため寄港した際のおもてなし等をこれからも継続させることは近い将来困難になると思う。また日本においてクルーズ船を堪能できるほどの休みをとりやすい企業は少ないため、クルーズ船が日本に馴染むまでに時間がかかる気がする。
6. 若い世代からの視点を中心に意見をまとめると、ニーズ向上のために大きく分けて2つのボトルネックがあると考えられる。まず第一に金銭面である。昨今、移動費は最小限に抑え旅行先において金銭をつかうという傾向があるように思えることが、その根拠である。第二に時間的側面である。クルーズは会場をゆっくりと移動するため必然的に所要時間が長くなる。元来勤勉であり仕事に人生の時間のほとんどを割いている日本人の特に労働人口は、正直なところクルーズ旅行に繰り出すほどの休暇を取るのが難しいのではないかと、という先生方の意見を反映した主張である。以上の点を踏まえれば、比較的安価で拘束期間の短いクルーズツアーを打ち出し、適切に広報活動を行うことができればさらなる市場拡大が見込めるのではないかと考える。
7. ・クルーズは海岸沿いの自治体を復活させ、観光客の集中化を解消し、地方をバランスよく発展させると考えられた。・クルーズ会社も若者を対象にして通常よりも安い料金設定のプランを作ればいいと思う。・テレビなどのメディアで大きく取り上げていくことも大事だと思った。・クルーズに対して人々が抱いている固定観念（お金が高い・日数がかかる）を払しょくさせる広告を行えば行ってみようという気になると考える。
8. 新宮市の担当者の方が、クルーズ船は航空機に匹敵する経済的潜在能力があるとおっしゃっていた。それだけクルーズは今後の発展の見込みがあるものである。私自身今回初めてクルーズを経験して、寄港地への移動そのものを楽しむというクルーズの魅力を実感した。航空機や新幹線を使った旅行よりも時間がゆっくり流れているような感じがして、非日常を体験できた。大きな荷物を気かけなくとも、一度の旅でたくさんの地に訪れることができるのもクルーズの魅力である。若者からお年寄りまで、幅広い世代で今後も利用客は増加するだろう。
9. いままで述べてきた通り、やはりクルーズの楽しさは体験してみないとわからないところも多い（言い換えると、リピーターは多いと思う）。なので、まずはク



クルーズに乗るという「きっかけ」を用意することが大切だと思う。具体的には、日本のスタイルに合うように短期間のクルーズ旅行をもっと用意するとか、若い人が旅行を考えるとときにクルーズを選択肢に入れられるようにもう少し価格を抑えられるような取り組みを行うといったようなことが考えられると思う。

10. やはり、クルーズの振興にむけてターゲット層の拡大が欠かせないと思うが、時間のある大学生にとってクルーズは敷居の高いものになっているという現実もある。それを踏まえて、クルーズをもっと身近なものにしていく工夫が必要なのではないかと思う。
11. 時間に追われることの多いこの時代だからこそ、ゆったりとした時間の中で過ごす船内はより貴重なものとして記憶に深く刻まれるだろう。しかしこのような経験ができるのはお金持ちだけだ、と感じている人も多いに違いない。しかし最近では安く行けるツアーなどもあることをもっと告知していけば、寄港地に選ばれた都市などで地域活性化も進めることができるだろう。
12. クルーズの社会的意義として、娯楽の一面が多いかもしれないが、今回のように社会科見学など学習の一環として活用する可能性も大いにあると思う。クルーズ振興のためには、やはり人々にクルーズを身近なものに感じてもらう必要がある。値段も重要かもしれないが、それ以上に情報量が足りないと思うので、普段からクルーズに関する情報の流通が大事だと思う。
13. 多くの人にとって船といえば、魚を捕まえに行くための道具か、輸出入に使う道具であって、自分が乗るためのものであるという認識はないと思う。僕は日常的に時間にお金を払っているが、それがあまりに身に沁みついていて、船で移動するという事はなかなかしにくいのではないだろうか。安い料金設定で暇な大学生をターゲットにすることが僕には妥当に感じる。
14. 現在は全国各地でクルーズ船誘致にむけた動きが進み、自治体間での誘致競争の様相を呈しているが、クルーズ船誘致を本当に行うべきか再検討が必要な自治体も多く存在するのではないか。また既に投資をおこなっている港を有効活用していくためにもさらなるニーズの掘り起こしは不可欠であると考えているが、いかに幅広い層に、クルーズが身近になっているか知ってもらえるかが最重要であると感じた。
15. 今回のクルーズで一番に感じたことは、若い世代はクルーズを一度経験することで、その多くが今後もう一度乗りたいという気持ちを抱くであろうということだ。しかし、それと同時にクルーズは乗ってみたいとその良さが分からないため、クルーズに乗ったことのない若い世代が今後、旅の選択肢にクルーズを選ぶことは時間や金銭的制約の問題もあり、ハードルが高いのではないかと感じた。実際、下船後、「クルーズ船に乗ってきた」と大学の友人に言うと、「クルーズ船」のイメージが全くないようで、ただ寝る場所がついた船のようなものを想像してい

た友人もいた。どのようにすれば多くの若い世代の人たちに、クルーズの魅力が伝わるのかを考えることが、今後の課題であると思う。

16. 日本人にとってクルーズはお金持ちが乗るもの、という印象が強くあまりなじみがない。しかし、船上での体験や寄港地での観光などはとても貴重なものであり、若いうちだからこそ感じられることや経験できるものであると考える。今後は若い世代もクルーズに親しめる機会が増えれば良いと思う。

17. 21番の設問を踏まえて、若い世代を呼び込む策について考える。根本的には、日本の社会人の働き方、休暇の取り方が変わらないと、近い将来クルーズの需要は頭打ちになるであろう。その中で比較的時間がある大学生を呼び込むには、クルーズは敷居が高すぎる印象もある上に、実際の乗客が高齢者ばかりとあっては、せっかく興味を持った若い層も引け目を感じてしまう。それを解決するために、初めから集客の対象を若い層だけに絞れば良いのではないだろうか。



18. どうしてもクルーズ＝引退した裕福な中高年向けというイメージが拭えないので、今後クルーズ産業を発展させていくためにはファミリー層や若者を取り込んでいくのが必要なのではないかと思った。ただ日本人はなかなかまとまった休みが取れないと思うので、2泊三日などの短期の行程があれば、それらの層を巻き込んで行けるのかなと思う。
19. 私は若い世代のニーズの掘り起こしについて考えた。クルーズは若い世代にとっては少し取っつきにくいイメージがあると思う。乗船前の私のように船内でいたい何をするんだと思っている、若者も少なくはないだろう。それなら飛行機や新幹線などで速く目的地に行き、目的地での時間を大切にしたいと思うだろう。また値段も高い。しかし、1度体験すると、もう1度行きたいと思う。あんな非日常を味わえるなら、あの値段も妥当だと考えられる。実際に私がそう考えている。なので、まず1度クルーズを体験してもらうことが若者のニーズを掘り起こす良い方法だと思う。すでに行われているがディナークルーズも良い方法だと思う。また学生割などを行い、卒業旅行などで学生に参加してもらえるようにするのはどうだろうか。ぜひ、多くの若者にあの非日常を体験してもらいたいと思う。
20. クルーズでは非日常を味わうことができた。これがもし日本の働いている世代の方々に乗ってもらうことができたなら、一種の緑の手段として確立されるであろうが今のままでは到底できそうにないので政府が働き方改革をこのまま進めていかなければならないと思う。

21. クルーズは正直、お金持ちが乗るようなものと考えていたので、今回乗ったこと  
によって改めて思ったイメージは裕福な人たちがこういうクルーズ船に乗ること  
で各寄港地の良さをその人の友人に伝えたりなどして、クルーズの乗船客の増大  
にも繋がると感じたし、クルーズ船を誘致しようと日本の各県庁が対策している  
のも頷けた。
22. 時間がある学生にとって、クルーズはお金がかかるもの、お金持ちでないと参加  
できないものというイメージが強く持たれているのが現状であると感じる。今回  
乗船したようなカジュアル船のターゲット層をより若い世代にし、若い世代にも  
認知度が高まれば、将来の利用観光客も増加するのではないだろうかと思う。
23. クルーズ船での旅行は若者にとって全く新しい感覚を与える。今の少子化社会や  
核家族化を考えると若者の利用者を増やすことはクルーズ振興にそこまでの大き  
な利益はもたらさないかもしれないが、それでも新しい市場を開拓していくこと  
によってまた違う面で嬉しい副作用があるかもしれない。それに、私は今回初め  
て乗って、絶対もう一度乗りたいと思ったし、意外とリピーターはできやすいの  
ではないかと思う。だからこれからも新しいことにチャレンジし続けてほしい。

### (3) クルーズ全般への感想：将来に向けての感想、上記の項目に該当しなかつた部分への感想など

1. クルーズでの旅行は日常の喧騒から離れ非日常を味わえるという点で魅力があり、  
今後も市場の成長が見込まれている。今回の企画は自分自身がクルーズを体験する  
ことでクルーズについて理解と考察を深めるという意図だったが、十分に達成でき  
たと考える。今後もゼミにおいて政策提言に向けた活動をしていく中で、クルーズ  
についてや観光面全般に関して得た知見を活かしていきたい。
2. 大きな船だったのでそれほど揺れないだろうと思っていたが、想像以上に揺れが激  
しかった。特に日本海上では大きく揺れたので酔い止めは持って行くに越したこと  
はない。これまでにない素晴らしい経験をさせていただき、クルーズ船の魅力につ  
いても体感することができたので、これからは旅行手段の一つとして積極的に利用  
したいと思った。また、自分たちだけではなく周りの人に魅力を伝えたり誘ったり  
するなど、クルーズの魅力を伝え、クルーズ振興の一助になりたいと感じた。
3. まず、怪我した状態で参加したことは本当に痛恨の極みだと考えています。客船は  
色々種類があって大きさ、施設等が多種多様なので、コスタ以外の船にも乗船して  
みたいと思います。また、2度目のコスタにも乗ってみてコスタの良さを再発見で  
きる機会も欲しいとおもいました。上にも述べましたが学生がクルーズの宣伝等をも  
っとしていくべきだと考えているので、自分も含めて、クルーズ船を友達や先輩  
に布教活動の方をしていきたいと考えています。

4. クルーズの中での時間の使い方をもう少し有意義にできた方がよかったとは思った。海風を浴びながら寝るのも気持ちよかったが、本などを持って行って、普段はできない時間の使い方をもっと楽しめたらいいと思った。また、クルーズ自体は楽しかったが、働きだしてから行くのは休みが取れず難しいかとも思った。



5. 普通のリゾート地との大きな違いとしてやはり下船したいときに下船できないという点が上げられる。だから本など普段休日することをもって行くべきだったと思った。そしてクルーズ船に次乗るとしたら社会人になってお金を稼ぎ、贅沢できるようになってから乗ってみたいと思った。
6. 単純に一言で今回のクルーズを表すなら、私の所属する赤井ゼミの掲げる言葉の通り「学びと遊び」の溢れた旅に出会ったと言えると思う。とにかく充実感と非日常の雰囲気溢れた日々であったけれども、その中で「もっとこうすれば良かった」と言う点を挙げるならば、船内で出会った人々にもっと積極的にコミュニケーションをとれば良かったということである。クルーズ船内というある程度封鎖された空間で、普段で接することの少ないご年配の方々や外国の方々など、その場でしか得ることのできない出会いを大切にしたいと帰って来た今振り返っている。私はまだ2年生であり、来年またクルーズ船に乗船するチャンスがある。またもその機会が幸運にも得られるのであれば、今回のクルーズで得たことを活かしより有意義な経験にしたいと願うとともに、クルーズを一度経験した者として、自分自身クルーズの良さを周囲に発信してい港と考えています。
7. ・参加した感想で率直に思ったのが、クルーズの未来は明るいということだ。日本にはこれから大きく伸びていくであろうと思えた。・正直言って自分はクルーズには縁遠いと思っていたが、今回のスマートクルーズアカデミーに参加して、クルーズが案外自分にも手の届くものだと思えた。・一つ気になったのは船内でのチップだ。日本にはやはりまだチップの文化がなく、私も先生からサービス料のことを聞いた時は耳を疑った。・いくら海外資本の会社でも日本での客数を伸ばそうと思うなら日本の文化にも少し合わせてみてもいいと思った。・クルーズの楽しさというものは参加した者にしか分からないが、口コミで伝えることで体験した内容そのままを伝えることができると思う。そして、その話に興味を持った新規顧客が乗船してくれると思う。（実際、もう卒業旅行で呼びかけている）
8. 今までしてきた旅行をふまえたり、そして今回のクルーズを通して、やっぱり旅の中で1番記憶に残るのは人との出会いやつながりだと思った。今回もゼミ生や他大のゼミ生と仲良くなれたのはもちろん、先生方、自治体の方々たくさんお話をし

たり、クルーズに乗らなければ出会うことがなかったであろう乗客の方々、クルーとお話しをしたり、踊ったり。訪れた場所や食べたものももちろん思い出けど、それ以上に人とのつながりが1番大切だなと感じた。クルーズ旅行では、閉ざされた空間に一週間以上居ることになるため、その中で日常では出会うことの無い人と出会って、繋がれる。初めてクルーズ船に乗ってみて、それが1番の目的で来ている人も多いように感じた。今回のクルーズ旅行は今後のクルーズのあり方についても考えるきっかけとなり、貴重な経験だった。次に乗るのが待ちきれないです！

9. 私自身、今回のアカデミーを通して、クルーズにとっても魅了され、これからもたくさんさんのクルーズを体験したいと考えている。7泊8日では体験しきれなかったこともたくさんあった（特に、船内新聞を読み逃して参加できなかった船内イベントがあったことは後悔している）。ただ、それを実現するためには、もっとクルーズをポピュラーにし、行ける機会を増やすことが重要だ（社会に出るとなかなかクルーズの機会を作りにくい現状に今はあると思う）。だから、私自身も（行政等に任せるだけではなく）クルーズの楽しさを経験した1人として「クルーズ」を周りに伝えることで、微力ながらクルーズ活性化に貢献したいと思った。また、ひとりひとりがそのような意識を持つことが、結果的にクルーズ市場を広める大きな原動力になると感じた。
10. はじめてのクルーズ旅行でその魅力を心底実感したので、また機会を設けてクルーズ船に乗りたいと思う。船の上で過ごす時間は、ぼんやりと海を眺めている時間も、みんなで話している時間も、すべてが有意義で大切な時間だった。このような時間の使い方を最近忘れていたので、これからはそういう時間も大切にしていきたいと思った。
11. 一つ残念だったのは、せっかく二つもあるプールに行けたのが最終日の下船直前だったこと。季節が合わなかったこともあるが、大変残念だった。また最近送られてきたクルーズのチラシを見てみると、この間と同じほどの価格で七泊八日の旅に出られることが分かったので行く気満々になってしまっている。しかし授業もあるのでその兼ね合いを考えてから決断したい。多くの社会人がなかなかクルーズに手を出せないのも長期休暇（と言っても1週間ほどだが）が容易には取れないこともあるだろう。この問題にも対策を打たないと、若年層を乗船させるのは困難であることも事実だ。
12. 今回クルーズを体験して、その魅力のほんの一部かもしれないが、様々な体験をした。少なからず異文化交流をする場面もあり、その面白さを感じることができた。来年は別のクルーズ船に乗ってみたい。（コスタも十分楽しかった。）
13. 今回のクルーズで人生最後のクルーズになるかどうかは、僕の働き方にかかっていると思う。休みをとれる取れないの違いがそのまま反映されるものだと思う。お金を持っている人が多く乗っていることは、クルーズが高いということではなく、十

分な休暇のとれる働き方の職場で働く人は、能力が高いということなのではないだろうか。

14. 去年は毎日どこかの港に寄港していたために、クルーズを寄港地ありきで考えており、終日クルーズに抵抗感を感じていたが、終日クルーズでは、日々の疲れや寄港地での疲れを癒す、非常にゆったりとした時間を過ごすことができ、クルーズ本来の良さが認識できた。また去年に比べ、広い視点からクルーズを考えることができたとても有意義な6日間だった。
15. 正直最初は去年と同じ船と聞いて、違う船に乗ってみたいかと思ったが、2回目のコスタは1回をはるかに超える楽しさで、新しい楽しみ方も発見できたので、下船時はコスタで良かったとさえ思った。さらに、一緒に乗船するメンバーが違えば、また違った楽しみ方ができるということも実感した。本当に、夢の世界にいたような、非現実的な空間で、素晴らしい時間を過ごすことができ、最高だった。個人的に、感動したのは、夜景を見ながら、各寄港地の橋をくぐる瞬間だった。動画にはおさめたものの、やはり実際に見るのとでは、その感動は桁違いで、またあの瞬間に立ち会いたいと強く思った。
16. ゼミ生や他の大学の学生と一緒に貴重な経験や楽しい体験ができ、とても楽しい思い出がたくさんできたクルーズ旅行だった。去年・今年とクルーズ船に乗船し、クルーズの良さを知ったので、今後もまたクルーズ旅行に参加してみたいと思う。
17. 全体で見ればクルーズは魅力的なレジャーであるし、日本にはなかった旅行の形を提示してくれる新しいレジャーではあるが、もともと日本にはなかったからこそ、日本の文化とのすり合わせが今後のクルーズ戦略において重要になってくるであろう。まだまだその魅力は十分に伝わっていないので、これから私たちの同世代にもクルーズの魅力伝えていきたい。
18. 去年と全く同じ船で船内サービスに対してはあまりワクワク感がなかったが、それでも去年はやらなかったことなどを積極的にやってみたりして、自分なりに満足いく8日間が過ごせたと思う。またゼミのメンバーとも仲良くなれて、これからの論文執筆に向けた土台をしっかりと築けたんじゃないかと思っている。
19. 本当に本当に楽しかった。去年参加できなかったことを改めて、またより残念に思った。4日間であんなに楽しかったのだから、全日程参加できれば、もっと楽しく思い出がいっぱいできたであろう。ぜひ、自分の新婚旅行はクルーズがいいとさえ思っている。
20. クルーズに乗れたという経験には非常に満足しているし、連れて行ってくれた各先



生方には感謝しています。これが日本で確立されるには様々な要因が必要であると思うが、条件が重なればうまくいけるのではないのかなともう。若いうちに経験できて非常に有意義であった。

21. クルーズ船は自分の価値観が良い意味で変わる経験となった。他の乗船客との交流なども楽しむことができたし、クルーズによって各寄港地の収入増加にも繋がるため、若年層に対して格安のクルーズツアーを行えるような機会が訪れて欲しいと思った。
22. 最初のアカデミーが苦痛だったが、それが終わってからは、今までに経験したことのないことがたくさんあり、また、他大学の友達もでき、充実した7日間を過ごすことができた。今回のクルーズアカデミーで船旅にハマってしまったので、また別のクルーズに参加したい。今回でどのくらい荷物が必要なのかとか、ある程度の勝手がわかったので、今度はもっと荷物も計画もスマートなものにして参加したいと思う。
23. 一番反省したのは服が多すぎたという点である。一度も着なかった服が何着もあったのはさすがに考えが足りなかったと思う。だがこの一回で大体の要領が分かったので次からはそんなに大きな失敗はしないだろうと思う。途中で下船するのが本当に惜しいくらい素敵な船旅だった。卒業旅行で部活のみんなとのるのもありだなと考えていたら阪大生も同じようなことを言っていて考えることはみんな同じなんだなと思った。

